

2026年度入学試験問題・参考作品

外国人留学生特別選抜・帰国生特別選抜

造形学部

- 002 日本画学科
- 003 油絵学科油絵専攻
- 004 油絵学科グラフィックアーツ専攻
- 005 彫刻学科
- 006 視覚伝達デザイン学科
- 008 工芸工業デザイン学科
- 009 空間演出デザイン学科
- 010 建築学科
- 011 基礎デザイン学科
- 012 芸術文化学科
- 013 デザイン情報学科

造形構想学部

- 014 クリエイティブイノベーション学科
- 015 映像学科

帰国生特別選抜

- 017 造形学部・造形構想学部全学科共通

編入学選抜

- 018 造形学部
- 025 造形構想学部

修士課程選抜

- 026 造形研究科[A日程]
- 032 造形研究科[B日程]
- 042 造形構想研究科[A日程]
- 044 造形構想研究科[B日程]

博士後期課程選抜

- 048 造形研究科
- 049 造形構想研究科

※参考作品は、入学試験合格者の中から選定しました。

※受験生の文章は原則として原文のまま掲載しましたが、誤字脱字は一部訂正しました。

※2027年度入学試験の詳細は、大学webサイトで必ず確認してください。

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

配付されたアルミホイルと手を構成して描きなさい。

【条件】

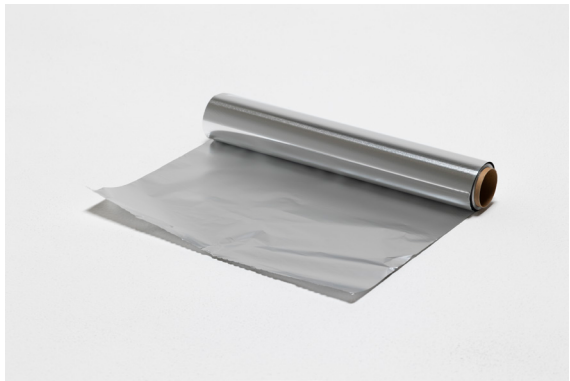
1. アルミホイルは自由に加工してよい。
2. アルミホイルの入っている箱はモチーフではない。
3. 答案用紙は縦横自由。
4. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(A2画用紙)×1枚
3. アルミホイル×1箱
4. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

出題意図と評価のポイント

近年は入学後に課題の中で日本画を描くと描写力の弱い学生が多い印象があったため、実物を観察した上での描写力を見るために、アルミホイルと自身の手をモチーフとして出題した。従来と同様に基礎的な描写力、構成力、独自の視点があるかなどをポイントに絵画表現として総合的に判断した。



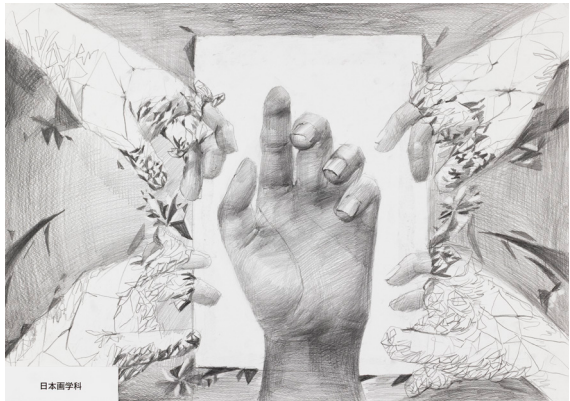
●面接

日常生活に必要な日本語でのコミュニケーション能力や、本学への志望動機、入学後の研究、制作への意欲、そして卒業後の進路など将来の展望についてどのように考えているかなどを質問して評価した。また、面接でも鉛筆デッサンの制作意図などの質問を行い総合的に判断している。



教員コメント

与えられたアルミホイルと手を描くという問題に対して描写力という点では物足りないが、描かれている線描の力強さが魅力的である。構成、空間表現を含め、素朴で絵画の原初性を感じるデッサンの可能性を感じ評価した。



教員コメント

手の柔らかい質感を比較的捉えることができしており、なおかつアルミホイルの表面の複雑な質感からイメージを膨らませ、手のイメージをさらに展開して絵画表現として構成することができている。表現の幅としても、細かい線と余白の粗密のバランスのある描写は魅力的で評価が高かった。3時間と短い中ではあるが、もう少し丁寧にかたちを追える描写が見られるとさらに良かった。

油絵(6時間)

【問題】

モチーフを自由に描きなさい。

【条件】

1. キャンバスは縦横自由。
2. キャンバスの裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. F15号キャンバス×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

出題意図と評価のポイント

モチーフ台に空の写真が印刷された布が敷かれ、その上に以下の4つの立体物が置かれている。

1. 垂直に立てられた細長い白い角柱の上に、茶色い蜷引きの紙袋が2つ交互に重ねられているもの。
2. 一辺が15cm、厚さ3cmの正方形の白い紙箱が交互に重ねられ、その上に木製の柄の赤いラバーカップ(排水管の詰まり等を取り除く器具)が置かれているもの。
3. 垂直に立てられた茶色の紙筒に白い紙袋が被せられていて、その上に模造の青リンゴが置かれたもの。
4. 一辺17cmの正方形の茶色い紙箱の上にガラスコップが置かれ、その上に赤、ピンク、白に色分けされたビーチボールが乗せられているもの。

単にモチーフを描けば絵になるというのではなく、モチーフ同士の関係性や空間に対する意識がなければ絵になりにくい構成にした。ただ、抽象的になりすぎないように紙袋やリン



ゴなど具体的に描写できる要素も含めた。空のイメージは、モチーフを置くための土台としての要素に加えて描き手のイメージを広げる心理的な要素になればと考えた。彩度が高い色彩と白や茶系の無彩色に近い色の関係、それらと布、紙、プラスチック、ビニールといった素材との関係などに反応して、絵画としてどのように表現するのかを評価のポイントとした。

●面接

最初に実技試験の提出作品について簡単に述べてもらい、その後質疑応答を通して、受験に至るまでの経緯や好きな作家などの美術に関すること、さらに入学後の展望などを述べてもらう。その受け答えの中で、自分自身の考えをしっかりと持っているのかということと、日本語検定の資格のみでは測りきれない、日本語でのコミュニケーション能力がどれだけあるのか、ということの評価のポイントにしている。



教員コメント

画面下の台の側面と、台の上の手前2つのモチーフは明確に描かれているが、その後ろの2つは、下から右上へと流れるような雲の白に溶け込むように描かれている。明確なかたち、画面を引き締める色(空の青とラバーカップの赤、リンゴの緑)と雲に溶け込んでぼやけるかたちと色との見え方の違いによってなのか、焦点が定まらない。見ていると視線は絵の外へと向かい、空の広がりを感じられる。人工物と自然との関係を示唆しているようにも感じられて興味深い。独特な感性で個々のモチーフを空のイメージに集約させることで、絵画として成立させている。



教員コメント

描くものを絞り込み、重なって見えるモチーフを1つのかたちとして捉えて画面の中のに確に配置して構成している。描写しながらもそれほど立体感を感じさせないかたちは、固有色を意識しながらもグレートーンに抑えた色味と相まって、落ち着いて軽やかな印象を与える。左右の余白はモチーフのかたちと絶妙なバランスを保っていて、単に背景の空間というよりも、空のイメージを抽象的に表現しているように感じられる。モチーフに反応しながらも作者の感性が十分に反映されていて、絵づくりの巧さも感じられる繊細で魅力的な絵画となった。

デッサン(6時間)

【問題】

設置されたモチーフを描きなさい。

【条件】

1. 答案用紙は縦横自由。
2. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(木炭紙または画用紙から選択)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

出題意図と評価のポイント

机上にアルミ製のカゴを逆さに置き、その上に白布とビニールに入った食パン1斤を載せた。これらを中心に、高さの異なる観葉植物を対角線上に2点、さらにもう一方の対角線上にコーラの瓶とラムネを配置し、全体を囲み構成としたモチーフとして出題した。

本出題は、硬質なアルミやガラス、柔らかな布やパン、植物など、異なる素材の描き分けに加え、物と物との空間関係の把握やパースペクティブ、画面をどのように構図として切り取るかを問うものである。基礎的な描写力と構成力を総合的に評価することを目的としている。評価にあたっては、モチーフに誠



実に向き合い、観察に基づいて最後まで描き切れているかを重視する。また、絵画的なイメージを構築し、独自の表現として発展させる力についても併せて評価している。

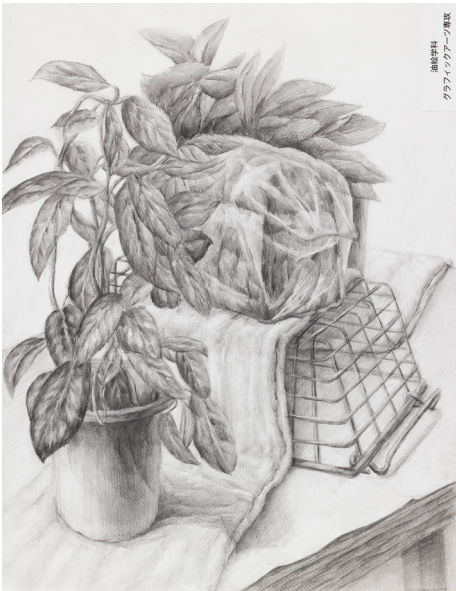
●面接

日常の授業に必要な日本語能力に加え、学習意欲や表現者としての資質を見ている。また、流暢さよりも誠実さと主体性を重視し、自分が何を考え、何を目指しているのかを、等身大の言葉で伝えられるかが重要である。



教員コメント

木炭による階調表現が美しく、丁寧な観察に基づいた描写ができています。物の固有色を的確に捉え、手前の網やパン、奥の植物の描き分けも良好で、それぞれの質感の違いがよく表れています。また、モチーフ同士の関係性だけでなく、それらを取り囲む空間まで意識しながら、全体をバランスよく構成している点を高く評価した。一方で、ラムネ瓶の形態にやや曖昧さがあり、机上に対して垂直に立っている印象が弱い。形態の構造をよりの確に捉えることで説得力が増す。



教員コメント

モノの質感を丹念に描いており、好感の持てるデッサン。画用紙に鉛筆で描いているが、布の柔らかな質感がよく描かれている。ただ、個々のモチーフの描写に意識が向きすぎたため、周囲の空間表現が弱く感じられる。手前の植物と網の上に載ったパンとの関係はよく捉えているが、奥の植物については鉢の位置や存在感が十分に伝わってこない。見えない部分も含めてモチーフ全体を取り巻く空間への配慮が必要である。

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

自画像を描きなさい。

【条件】

1. 答案用紙は縦横自由。
2. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(木炭紙大画用紙)×1枚
3. 鏡×1枚

出題意図と評価のポイント

もっとも身近な存在である自分の頭部を、どのように解釈するか。その解釈が客観的な観察に基づいて描写されているかを評価のポイントとした。

●面接

制作を続ける根気と好奇心、探究力がある人物を求めている。「授業に必要なコミュニケーションを取ることが可能か」「自分の作品がこれまでどのようにステップアップしてきたか」主にこの2点の伝達力を重視している。



教員コメント

自己を見つめる、という自画像というデッサンに対して、作者の性格までも感じさせるほどに繊細かつ全体的にもバランスよく描かれている。向かって右側の余白の領域を多く定着させることにより、やや硬さのある諧調の中に心地良い動きを感じさせている。3次元空間を強く意識し、その中に自己が存在しているという強い意志。その状態をしっかりと表現することができた秀逸なデッサンである。



教員コメント

作者の世界観が率直に伝わり、空間性を大切にした魅力的なデッサン。視線と全体の姿勢を意識した表現から狙いが明確に感じられ、胸郭から脊椎を経て頭部へ至る流れと各部の関係も、確かな立体として構築されている。細部のかたちや表情まで丁寧に描き込まれ、特に頭部の髪や顔から肩にかけての衣服の質感と形態感の描写に意図が表れている。一方で、肩・首・頭部を面として捉える意識がやや強く、形態の柔らかさやかたちのつながり、髪の表現が単調に見える箇所がある。腰から胸郭にかけての量感の流れと空間性への意識をさらに深めることで、立体感がより生き、画面全体の完成度は一層高まるだろう。

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

机上のモチーフをデッサンしなさい。

【条件】

1. 答案用紙は縦横自由。
2. モチーフは必ずしも全体を描かなくても良い。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3画用紙)×1枚
3. 下書き用紙 (B4上質紙)×2枚

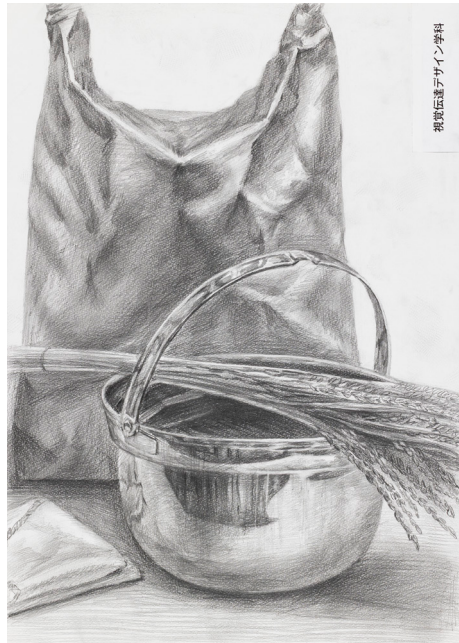


出題意図と評価のポイント

紙製の米袋、ステンレス製の鍋と把手、木製の鍋蓋、稲穂、麻布の配置が生み出す空間の広がりをも的確に捉えることが求められる。また、それぞれのモチーフの質感を正確に描き分け、全体のボリュームや形態、比率を適切に表現することも重要な要素となる。特に、鍋の金属特有の反射を丁寧に描き、稲穂の実や米袋、麻布の複雑で微細な表情を表現する観察力と粘り強さが試される。

●面接

日本語の能力が授業を進める上で十分であること、本学科の授業内容や教育理念を理解していること、教員や学生とのコミュニケーションに問題がなく意欲的に学習に取り組める人物であるかを評価の基準としている。



視覚伝達デザイン学科



視覚伝達デザイン学科

教員コメント

各モチーフの微細な部分がしっかりと描き込まれ、特に米袋の紙、鍋の金属、麻布、稲穂の質感の違いを的確に捉えられている。モチーフの大きさの比率にやや惜しさがあるが、全体として密度の高さと繊細な表現に観察力の高さがうかがえ、好感を持つことができる。

教員コメント

構図、各モチーフの配置と形状が的確に描かれ、影が織りなす空間がしっかりと捉えられている。質感が的確に表現され、特に鍋の反射、稲穂の実と葉の調子がよく捉えられている。細部までよく観察し、ごまかさずに描こうとする粘り強さと集中力が感じられ、力強い印象の仕上がりである。

デザイン(3時間)

【問題】

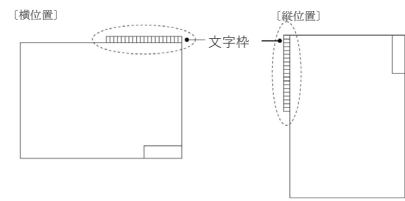
あなた独自の「夢の国」について、イメージしなさい。イメージした夢の国を視覚化して、色彩構成として表現しなさい。画面の与えられた文字枠内に、あなた独自の夢の国について20文字以内で日本語で説明しなさい。

【条件】

1. 使用する色数は自由。
2. 描画画面は文字枠以外の紙面全体とする。
ただし、紙の余白は白色とみなすので、全面を塗りつぶさなくてもよい。
3. 答案用紙の縦横は自由。
4. 答案用紙の裏側中央に天地を示す矢印「↑」をわかりやすく記すこと。
5. 文字枠は塗りつぶさないこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3ケント紙)×1枚
3. 下書き用紙 (B4上質紙)×2枚



出題意図と評価のポイント

「デザイン」では「夢の国」というキーワードを通して、与えられたテーマに対する「分析力」、それを視覚化する際の「想像力」、そして絵としての「表現力」の3つの力を問うた。デザインすることや、デザインを学ぶにおいては「テーマの分析」は必須であり、そして表現する際にはデッサンのような即物的なことではなく「見立て」や「比喩」などの「変換」や「想像する」力が必須

である。その力を問うた。「夢の国」は捉え方が多様であり、また主観と客観が入り混じるキーワードである。受験生にはこういった立場で分析し想像したのかを絵と説明文を踏まえて明確にさせ、それに適したものが描かれているかを評価のポイントとした。

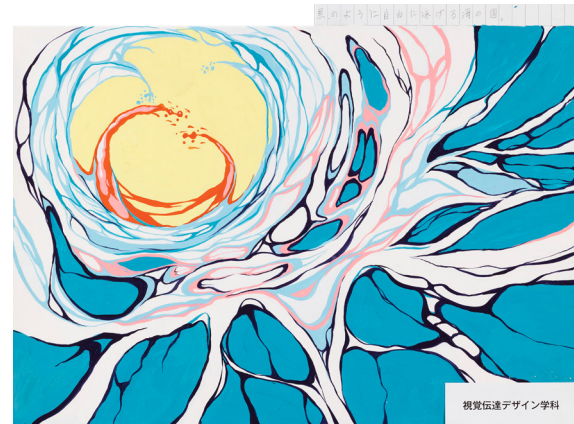


視覚伝達デザイン学科

じゅんすいだけが咲く空間。

教員コメント

白く、美しく、柔らかい何かが、ひたむきに幾重にも重なり合い暗い空間の中をフワフワと浮いている。簡潔な色彩と構成で描かれた、本作品「夢の国」は神秘的で清らかな時間の流れを感じさせる洗練された作品である。発想力、構成力、表現力ともに高く評価した。



視覚伝達デザイン学科

魚のように自由に泳げる海の国。

教員コメント

上部まで回り込む綺麗な円のような表現、大波を迎えた海だろうか。そしてその水流にほとぼしる血潮のような赤。奥の方ではほのかに生命を感じさせる動きが表現されている。この勢いがある描き方や、対照的な色の表現が「希望」として何が起こるかわからない一抹の「不安」を感じさせ、まさに「夢の国」を想起させる。

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

モチーフをデッサンしなさい。

【条件】

答案用紙は縦横自由。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B3画用紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

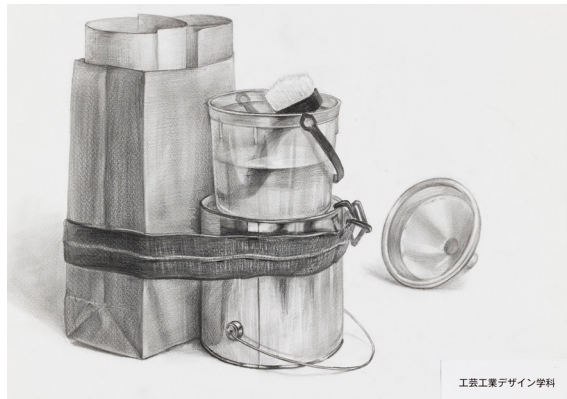


出題意図と評価のポイント

基本的なデッサン力を見ることが目的であるが、特に本学科ではさまざまな形態・素材のプロダクトを扱うので、モチーフのプロポーションを正確に捉え、質感を描き分けるデッサン力、細部を描き込む集中力や正しいパースで描く技能を見るための出題となっている。

●面接

美術、デザインに対する関心の高さや将来の目標、日本への関心などについて、日本語で自分の考えや意見を述べることができる能力を重視している。加えて、自主性や広い視野で学習や研究に取り組む意欲の高い人物を期待している。



教員コメント

縦構図になりがちなモチーフ構成ではあるが、距離の離れた漏斗をうまく使い、横構図のメリットを生かしたデッサンとなっている。中央のプラスチックバケツや紙袋の中に収まっている色画用紙の厚さや質感の違いを出す描写力をつけることでより高い評価が期待できる。



教員コメント

さまざまな素材を描き分ける描写力の高さと正確にモチーフのプロポーションを捉える力によって、中央に直立したモチーフにぐっと引きつけられる。またバンドの布目やフックのハイライトなど、細部を描き込む集中力を感じることができ、完成度の高いデッサンとなっている。

デザイン(3時間)

【問題】

答案用紙内にフレーム(枠)を自由に設定し、そのフレームの内側に「自由」「不自由」という2つの言葉から連想したものを、色彩を使用して表現しなさい。

【条件】

1. 「作品タイトル」か「作品の簡単な説明」を答案用紙右下に明記すること。
2. 下書き用紙は作品に使用しないこと。
3. 答案用紙は縦長で使用する。
4. 答案用紙を成形、変形、切削してはいけない。
5. フレーム(枠)は携行用具を利用した描写でも、フリーハンドでの描写でもよい。
6. フレーム(枠)はその一部またはすべてを答案用紙からはみ出させてはいけない。

出題意図と評価のポイント

まず、設問の「答案用紙にフレーム(枠)を自由に設定し、そのフレームの内側に「自由」「不自由」という2つの言葉から連想したものを…」という日本語による指示を理解し実行しているか。さらに設問にある「自由」「不自由」という2つの言葉から作者が感じたイメージを率直に表現したフレーム(枠)内部の色彩構成とフレーム(枠)外の無彩色の空間が互いに連動して表現されているか。その点を今年の審査の基準・評価ポイントとした。



不自由から自由へ

教員コメント

「不自由」から「自由」へという言葉のイメージを、左下に窮屈に集まった風船らしき物体がそのままに画面を右上に横切るように舞い上がる様として写實的に表現したこの作品は、設定されたフレームのかたちと風船の運動表現がとてよく計算されている作品である。左下から右上に向かう中折れの直線で囲まれた無機的な着色部分と無着色部分の構成と色彩計画は、「不自由」からの解放感を表現すると同時に、解き放たれた先にある「自由」に対しての作者の冷やかなイメージも感じられる。

7. フレーム(枠)の範囲や広さや形状は、答案用紙内であれば自由。

8. フレーム(枠)の外側は着色してはいけない。

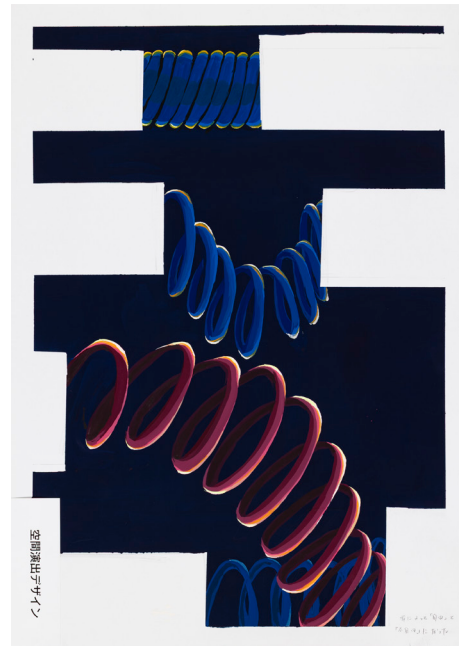
9. フレーム(枠)の内側は色彩を使用しなければいけない。

10. 色数は自由。

11. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B3セント紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚



枠によって「自由」と「不自由」になった

教員コメント

バネの圧縮＝「不自由」、解放＝「自由」までの連続形態を連続性のある動的な演出手法で表現したこの作品は、設定されたフレームのかたちがバネに与える圧力を可視化し、画面上部から下部へ流れる動きと配色のバランスはテンポよく計算され、作者が意図した画面構成が率直に伝わる作品である。しかし残念ながら、バネの形状や圧力が解放される瞬間のバネのデッサン力や着色の技術が足りず、そのことが動きの表現に必要な緊張感を失わせている。画面構成におけるリズム感は上出来なので、今後、日常にある動きをよく観察しデッサン力を高めてみてはどうか。

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

配付されたアクリル製の鏡(100mm×100mm)と、木のキューブ(一辺40mm)を下記の条件に従って自由に配置構成してデッサンしなさい。

【条件】

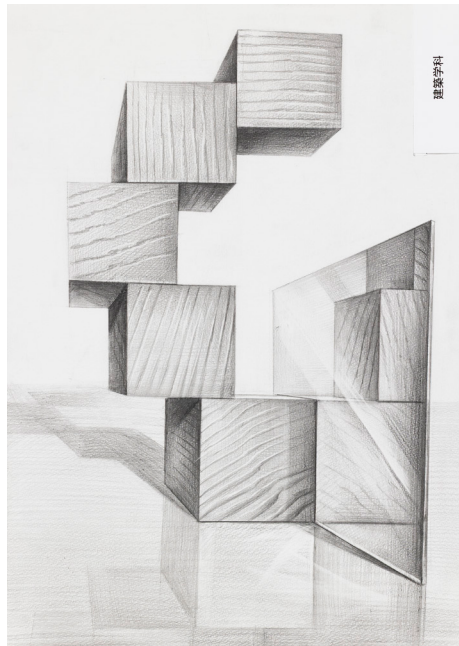
1. アクリル製の鏡は1枚、木のキューブは3個以上(上限5個)描くこと。(鏡像のものは数としてはカウントしない。)
2. アクリル製の鏡は鏡の面が表になるように表現すること。
3. キューブはすべて互いに接していること。
4. モチーフ同士は貫入したり、分割したりしてはならない。
5. 答案用紙(B3画用紙)は縦横自由。
6. 目隠しカードの上に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B3画用紙)×1枚
3. アクリル製の鏡(100mm×100mm)×1枚
4. 木のキューブ(一辺40mm)×2個
5. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

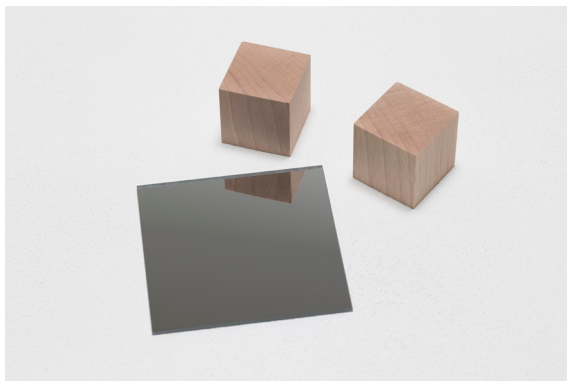
出題意図と評価のポイント

配付したモチーフに加え、諸々の条件を正しく理解した上で空間構成しているかをチェックポイントとした。この条件は日本語能力を測る側面も含む。配付モチーフが比較的単純で描きやすい形状のため、空間構成における感性と描写・表現力が重要な評価ポイントになっている。



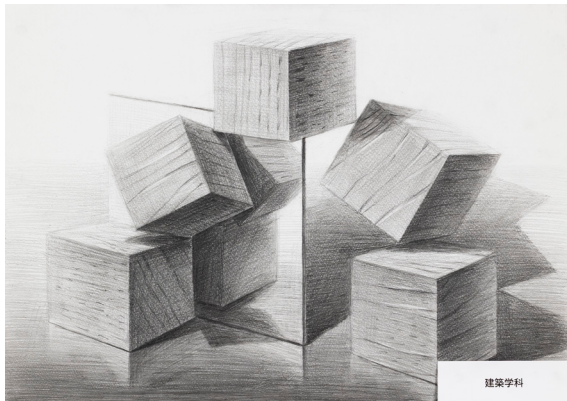
教員コメント

出題の条件を読み取り正確に表現されており、バランス的配置と鏡の中の表現が丁寧に表現されている。



●面接

日本語により自身の考えを伝え、教員の質問や説明を理解することが重要であるので、日本語能力を評価の重要なポイントに置いている。その上で、建築・環境への関心、発見力、想像力、思考力などを評価している。



教員コメント

出題の条件を読み取り正確に表現されており、立体的配置に工夫が見られ、陰影なども丁寧に描かれている。

基礎造形(3時間)

【問題】

家族をテーマに幾何学図形を用いて描きなさい。

【条件】

1. 答案用紙は横長で使用すること。
2. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B3ケント紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

出題意図と評価のポイント

今回のモチーフである「家族」は、最も身近なテーマの1つでありながら、個々の家庭環境の違いや、地域ごとの風土や文化に根ざした独自性を持つ。多様な文化的背景を持つ受験生にとって取り組みやすい題材であると考えた。受験生が家族とのどの場面をどのような意図で選んだか、そしてその場面を幾何学的な表現として効果的に定着できているかを通じて、計画性や造形力を判断した。また、大胆な解釈や独自の視点が提示されている作品については、積極的に評価した。

●面接

受験生には、自身が取り上げた家族にまつわる場面について、制作した幾何学図形を見せながら簡単な解説をしてもらった。文化的背景も異なるため、面接官と前提を共有できていない場合もある。そのため、日本語での説明力だけでなく、実際の学びの場で求められる、議論を通じて相手の考えを理解し、柔軟にコミュニケーションを取る力も重視した。



教員コメント

日々の食卓を家族を象徴するシーンとして選択し、大胆な構図で表現できている。シンプルなお箸のシルエットのコンポジションによって家族の関係性やそこで生まれる楽しい会話を想像させる作品である。



教員コメント

洗面所に歯ブラシが並んでいるだけで、家族と暮らしているということが想像できるという小さな気付きを大胆に表現している作品。若干具象的ではあるが、力強い線でポップにまとめられ、シンプルながら力のある作品である。

小論文(2時間)

【問題】

配付した文章は、日本哲学史を研究する藤田正勝が著した『日本文化をよむ 5つのキーワード』(岩波書店 2017年)からの抜粋である。

この文章を読んで、著者の意見を要約した後、グローバル化する世界の中で、芸術文化がどのような役割を果たすことができるかについて、あなた自身の考えを具体的な体験を交えながら、800文字以内で述べなさい。

なお、原稿用紙の1行目にタイトルを記述すること。

【条件】

1. 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. タイトルも指定字数に含む。

【配付物】

1. 試験問題
2. 別紙×1枚

出典：藤田正勝著『日本文化をよむ 5つのキーワード』

(岩波書店 2017年)、序iii～iv頁

3. 原稿用紙×1枚

4. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

別紙

文化の出会いがもつ意味は、何より、わたしたちを、自己自身の文化の枠組みのなかでは見えないもの、つまり異なったものの見方や世界観に目を向けさせるという点にある。わたしたちはそれに驚いたり、あるいはそれによって自分の世界観を揺さぶられたりすることを通して、みずからを顧みる目と、他者に対する共感の心を養ってきた。そのことを通してわたしたちはわたしたちの文化をいつそう豊かなものにするとともに、他者との共存の基盤を形成してきたのである。他者との出会いこそが、わたしたちがわたしたちの文化を豊かにする源泉でもあったと言えることができる。

しかし、いま、そのようなわたしたちが長い時間をかけて作りあげてきた営みが大きな危機に直面している。それは、いま世界全体を覆っているグローバル化の波と深く関わっている。グローバル化は多くの利便をもたらしたはしたが、しかし他方で、わたしたちの社会のなかに多くの問題を引きおこしつつある。

人々の関心がただ経済的な利益を追求することにのみ向けられるようになったことが、いちばん大きな問題であると言えるかもしれない。そして、なりふりかまわない利益追求によつて、さまざまな場所で格差が生まれ、対立や軋轢が生まれている。それは先進国でも途上国でもかわらない。民族や宗教、肌の色や性別、政治的な見解など、さまざまな観点から異質なものを発見し、その「他者」を誹り、排斥することで、自分自身のアイデンティティや存在意義を確認しようとする風潮が生まれている。

このような状況のなかで、文化と文化、民族と民族、宗教と宗教のあいだの溝がいつそう深くなる方向へと動き始めている。長い時間をかけて作りあげられてきた文化や、他者との共存の営みに亀裂が入ろうとしている。ここで踏みとどまらなければならないという思いが強くなっている。

そうした状況にすぐに有効性を発揮する対処法があるわけではない。それぞれがそれぞれの歴史や文化を担っていることを認め、尊重しあうことから出発する以外に道はないだろうか。人類はこれまでも異質なものに触れ、そこから刺激を受けることによってみずからの文化を、そしてみずからの生を豊かにしてきた。異なった文化や考え方は、お互いがお互いを豊かにしうる源泉なのである。その原点にいま立ち戻る必要を強く感じている。

出題意図と評価のポイント

文中に示された筆者の考えを理解し、自分の体験から適切なテーマを設定して、具体的な事例を選定し、自分自身の考えを伝えられるかを意図している。評価のポイントは以下の通り。

- ・別紙の文章に書かれた筆者の考えを適切に要約しているか。
- ・問題の主旨を理解し、適切なテーマが設定されているか。
- ・出題文の内容に適した具体的な体験を挙げる能够做到ているか。
- ・自分自身の考えを客観的に認識できているか。
- ・適切なタイトルが付けられているか。
- ・文字数が適切で、誤字脱字がないか。

●面接

以下のポイントから総合的に評価した。

- ・志望に至った経緯と動機を的確に話すことができるか。
- ・本学科の教育理念や授業内容をよく理解し、入学後の学習計画を持っているか。
- ・これまでの経験で得たアートやデザインに対する考えを話すことができるか。
- ・卒業後の進路に対する意識があるか。
- ・日本語でのコミュニケーションを十分に取ることができるか。

情報表現テスト(2時間)

【問題】

手を洗うことは生活の基本動作のひとつです。次の各問いについて答えなさい。

問題1.

水道と石鹸を使って手を洗い、水気を拭き取るまでの一連の過程を分析し、8から12工程の図として作成しなさい。説明する文字を入れてよい。

問題2.

あなたのこれまでの生活の中で、手の汚れを落とすために苦労した経験を日本語400字以内で述べなさい。

【条件】

1. 問題1については、答案用紙の指定の枠内でわかりやすくレイアウトすること。
2. 使用できる用具は、鉛筆またはシャープペンシル(BもしくはHB)、色鉛筆、消具、直定規、三角定規、コンパスのみです。記載されていない用具は使用できません。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

出題意図と評価のポイント

「情報表現テスト」は日本語の問題文を正しく読解し、問いの内容を的確に把握した上で、独自の解答に到達していることが最も重要な評価ポイントである。問題1では、ごく日常的な基本動作で無意識に行われがちな「手を洗う」行為について、これをプロセスに分割することを通して、時間軸上の情報の扱いにおける判断力と感覚を考査した。また動作の流れを図で表現することで、視覚的な構成力を見た。問題2では、自分の苦労について説明する中で、その経験の内容や考察が実感を伴った日本語で記述されているかどうかを評価した。



手を洗う習慣は大事である。最近流行しているインフルエンザやコロナウイルスなどを避けるためにも大事だが、私たちの目では見えないので目立つ汚れを落とすために手を洗うことがより多いイメージがある。

私が手の汚れを落とすために苦労した時は絵の具が手についた時だ。その絵の具はアクリルガッシュだった。他の絵の具と比べたら洗うのが難しい方ではないかもしれないが、当時の私は絵の具初心者だったので簡単に洗えるコツを知らなかった。トイレでずっと苦労している私に、話したことない子が絵の具を落とす方法を教えてくれた。そのおかげで無事に手をきれいに洗うことができた。感謝の気持ちを伝え、現在には仲良い友になっていく。

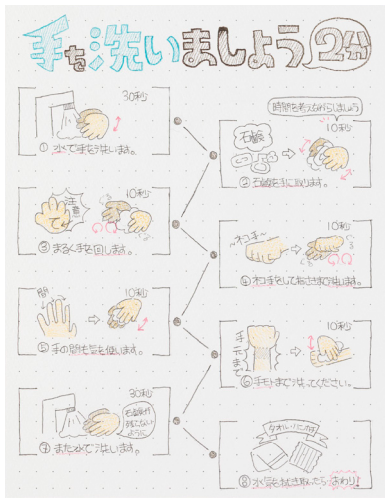
手を洗う行動は私たちの日常に深く溶け込んでいるので大したこととは思わない人々が多いが、手洗いをきっかけに新たな友達ができたら私は、この経験がとても大切であるのだ。

教員コメント

問題1では、プロセスの分割は適切であり、積極的に洗うべきポイントが強調して示されている。またフレームを少しずつ重ねることで時間の経過を空間的に表した図にも妥当性がある。その一方で、無造作な文字のレイアウトや、矢印の使い方の機能性には再考の余地がある。問題2では、アクリルガッシュの手洗いの苦労をきっかけとして、友達との出会いというストーリーとして結ばれているところに論述の余裕が感じられる。

教員コメント

問題1では、8工程の所要時間が示され、手洗いの流れも見やすく図化されている。単純化された手指の表現により、洗うべき部位へのスムーズな誘導が期待できる。プロセスをつなぐ黒丸と線が、時間の流れの表現とは別の独立した形状に見えてしまう点が惜しい。問題2は、手洗いの重要性を認識しながらも、作品制作に没頭して手を洗う余裕がないことの葛藤が伝わってくるが、日本語の語彙とその運用についてはまだ改善を要する。



手は日々を過ごす中、一番人が多く使う体の一部だ。そのくらい汚れやすいため、手を洗うことなどの管理が重要となる。だが手の汚れを洗いにくい場合も時々あるはずだ。ゆえに今から自分が手の汚れを落とすためを経験について述べていきたい。

私はほぼ手を洗うことを良くやっている。だが作品を作る際の手の汚れを洗うことはかなり苦労している。多分、多くの人がこの時の汚れを落とすのに力を入れているはずだ。作品を作る時には、パステルや鉛筆、ボス力などさまざまな用具が使われる。これらを使う中、手が汚れてしまうのだが、作る際には手を洗いにくいのだ。そのまま時間が流れてしまい、手を洗っても汚れている形になるのだ。この場合、手がキレイになるまで2〜3回くらい洗う苦労が待っているのだ。

このように作品を作った後、手を洗うことには、力が入る。それでも手の汚れを取することは大事だ。手をキレイに洗いたい。

小論文(1時間30分)

【問題】

近年、高齢者の単身世帯が増加し、高齢者が社会的接点をもつことが少なくなり、孤立してしまうことが社会問題となっている。

高齢者の孤立の現状と課題を様々な観点で分析した上で、それを踏まえてこの課題を解決する方法について詳しく述べよ。
(800字以内)

【条件】

解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

出題意図と評価のポイント

身近な課題設定のもとに、幅広い社会的視点から俯瞰する基礎的能力と、そこに自分なりのクリティカルな視点を持ち込むことによって得られる独自のテーマ性や、潜在している課題発見力を重視するとともに、設問に応じた日本語能力(読解力や論理展開力等)を評価ポイントとする。

●面接

美大における本学科特有の主旨・特色やカリキュラム構成を正しく理解し、グローバルな視点での未来や社会に対する新たなデザイン課題に対して積極的であり、グループワーク等では協調性を発揮できること。さらに、自身の将来的な夢や本学で学びたい授業分野、目指したい進路等について明確な目的意識や自分なりの考えを提示できることが望ましい。

映像学科

Imaging Arts and Sciences

感覚テスト(3時間)

【問題】

下記を含む漢字二文字の熟語を選び、その言葉から想起する場所や出来事などのイメージを絵と文章で表現しなさい。

「共」

【条件】

1. 選んだ熟語を答案に必ず含むこと。
2. 選んだ熟語を答案用紙左下の余白部分に記入すること。
3. 絵と文章を必ず用いること。ただし絵と文章の配置および配分は任意とする。
4. 解答欄の文字は1マス1字とする。
5. 答案用紙は横長で使用するこ

出題意図と評価のポイント

言葉に関する感性および、場所や出来事のイメージを創り出す力と、それを文章と絵で表現する力から、映像的な資質や感性を読み取りたいという出題意図である。評価ポイントとしては、問題から導き出した言葉を解答のイメージ表現の主たる手がかりとしているか、イメージを絵と文章で表現するにあたって、絵と文章の役割を的確に分担させているか、絵と文章のレイアウトが調和的に構成されているか、等である。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B3画用紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

●面接

映像の分野は、文章力やデッサン力、コミュニケーション能力、数学的能力等、さまざまな資質のどこからでもアプローチが可能なことが特徴である。従って、現在の自分が得意なことを、「感覚テスト」の解答の説明を通して、あるいは本学科で学びたいことや方向性を答えるかたちで、明らかにすることが求められる。当然なこととして、日本語の聞き取りと会話の能力も重視する。



教員コメント

死を選択した主人の願いに従いその骨壺を抱いて海に入水するロボットたち。何度となく繰り返されてきた行為から、その身体は半壊し、原型を失ってきたらしい。ロボットでありながら、身体に染み入る海中の冷たさを感じ、人間の孤独に「共感」する。漆黒の海に射し込む人工的な

光の中、2つの人型の塊、白く漂う遺灰と真っ赤なドレス…。ディストピアの哀切と寂寥に満ちたバックストーリーから、鮮烈なイメージを立ち上げらせている。

文章表現 (1時間30分)

【問題】

「複数の言語を知ることとは創作活動を豊かにする」という意見に対して、あなたは賛成ですか、反対ですか。その理由とともにあなたの考えを述べなさい。

なお、解答は700字以上800字以内で書きなさい。また、「です・ます」調ではなく、「である」調で書くこと。

【条件】

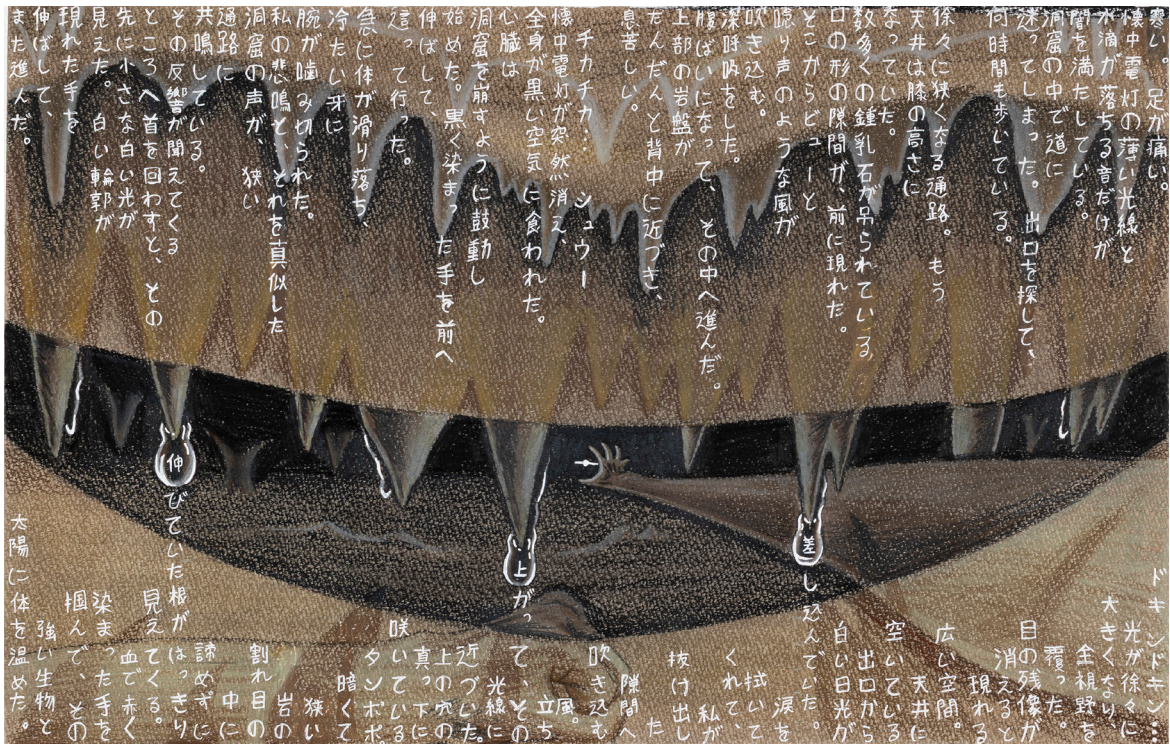
解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

出題意図と評価のポイント

帰国生特別選抜の文章表現問題では、ある意見に対して賛成か反対かの立場を論述する問題を課している。これは、根拠に基づき論理的に自己の主張を記述できるという論理的記述力を測るためである。したがって、論理的な記述がなされているかを第一に評価する。また、文法、文体等の言語的な要素も小論文として適切なものであるかも評価している。



教員コメント

洞窟で道に迷い、光源を失った暗闇で、音と身体感覚に頼り翻弄されながら、長時間狭い通路を探り進む。寒い、痛い、息苦しい…続く不安と恐怖が主人公を追い詰めた先に、突如ひらけた空間を怪物の口内に擬え、わずかな天光が希望と生命力を呼び覚ます。感覚を研ぎ澄まされる

体感時間を、泥に塗れ、血を流し、とドラマチックな表現で構築している。自身の悲鳴と、洞窟に反響するこだまが「共鳴」するとし、実感を伴う訴求力のある解答。



教員コメント

夏の川辺で足を水に浸からせ涼をとる主人公の眼前に天から降り立った白鷺。生き物同士の身体的で不思議なやりとりが交わされる神々しい時間が描写されている。息を呑む緊張感の中、両者の仕草の呼応を「共同」作業と称した。川中の岩上から見下ろす白鷺を中心に水紋が

広がり、主人公の小さな背中が対角線上に対峙する構図は時の静止を強調。幻のような体験を思い返し同じ仕草を繰り返すと、弛緩した平常時間がゆっくりと動き出す。

日本画学科

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、鉛筆デッサンおよび面接による審査

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

配付されたモチーフ(折り紙セット)と手を構成して描きなさい。

【条件】

- モチーフは自由に加工してもよい。
- 包装材はモチーフではない。
- 答案用紙は縦横自由。
- 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

- 試験問題
- 答案用紙(A2画用紙)×1枚
- 折り紙セット×1セット
- 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

審査基準・評価ポイント

●鉛筆デッサン

学部1年次に行う日本画の基礎的な技術を習得しているか、またそのために必要な描写力、構成力を十分に持っているかを見るため、手と色紙のセットを構成して描くという出題を行った。

手を描かせることで基礎的な描写力を判断し、色紙については鉛筆デッサンであっても色味の差異を意識において描いているかどうか、手との構成によって編入する学年に相応しい想像力や展開力を持っているかを判断し評価した。

●面接

編入学選抜はその学年に相応しい日本画についての知識と想像力、展開力を有しているかを確認している。また近年外国人留学生の受験が多くなっているため、進級した同じ学年の人たちとのコミュニケーションを取っていけるか(外国人の場合は日本語能力を含めて)を重視して判断している。

油絵学科油絵専攻

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、面接による審査

審査基準・評価ポイント

●面接

最初に提出作品について簡潔に説明をしてもらった後、作品制作全般のことや、そこから派生する自身の興味について述べてほしい。また本学へ入学後にどのような制作をしたいのか、将来の展望などをできるだけ具体的に聞いてみたい。

また提出作品やポートフォリオについての質問に対し、自身の言葉で率直に語ってもらうことで、これまでの制作の流れや今後の展開について理解するための手掛かりにしたい。

油絵学科グラフィックアーツ専攻

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、面接による審査

審査基準・評価ポイント

●面接

なぜ本学油絵学科グラフィックアーツ専攻に編入したいのかを、明確に伝えてほしい。その上で編入後の自らの学びの方向性について、過去の学修状況や提出作品、ポートフォリオなどとの関連性なども含めて、具体的に説明できること。版画、ブックアート、イラストレーション、絵本、デジタル表現など、グラフィックアーツ専攻で展開されるカリキュラムのうち、どの領域を学びたいのか、具体的な計画を聞かせてほしい。流暢に話す必要はなく、自分の言葉でしっかりと熱意をもって伝えることが望まれる。最終的には、面接とともに提出作品やポートフォリオなどから読み取れる造形力を総合的に審査し、判断する。

彫刻学科

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、鉛筆デッサンおよび面接による審査

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

自画像を描きなさい。

【条件】

- 答案用紙は縦横自由。
- 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

【配付物】

- 試験問題
- 答案用紙(木炭紙大画用紙)×1枚
- 鏡×1枚

審査基準・評価ポイント

●鉛筆デッサン

- ・もっとも身近な存在である自分の頭部をどのように解釈するか
- ・その解釈が客観的な観察に基づいて描写されているか
- ・彫刻を制作していく上で必要な「解釈の独自性」「その実現のために現実を観察し描写する力」をデッサンから問う。

●面接

- ・制作を続ける根気と好奇心、探究力がある人物を求めている。
- ・複数人で使用する工房での制作に必要なコミュニケーション能力
- ・これから彫刻を学び、制作を続けていくためのモチベーション
- ・自分の制作と作品がどのようにステップアップしてきたか。それが彫刻への志向にどのように関わっているかを面接から確認する。

視覚伝達デザイン学科

選考方法

ポートフォリオ、論文とその要旨(希望者のみ)の提出、デザインおよび面接による審査

デザイン(3時間)

【問題】

光は他の素材と組み合わせることで様々な現象や効果が現れます。また、紙は光と組み合わせたり、加工することによって様々な形態やテクスチャー、現象を作り出すことができます。配付されたLED懐中電灯の光と書道半紙の組み合わせから生まれる造形や機能など、光と紙の可能性を考えて、文章と絵(デッサン、スケッチ、図など)を使用して答案用紙に記述しなさい。

【条件】

1. 作品の説明とタイトルを、画面内の任意の場所に必ず記入すること。
2. 配付したモチーフは自由に加工してよい。
3. LED懐中電灯と包装材はモチーフではない。
4. 配付した書道半紙の使用枚数は自由。
5. 配付物は持ち帰らないこと。
6. 答案用紙は横長で使用するこ

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(A2画用紙)×1枚
3. LED懐中電灯×2個
4. 書道半紙×1束
5. 下書き用紙(B4上質紙)×3枚

審査基準・評価ポイント

●デザイン

LED懐中電灯の光と書道半紙という素材を用いて、造形や機能、現象をどのような発想で見いだし、構成できるかを見ることを狙いとした。課題の条件を明確にした上で、観察や記述の方法に自由度を持たせることで、受験者の思考の特性や着眼点、発想の展開の仕方がより表れるよう意図し、観察した内容を絵と文章の組み合わせによって他者に伝わるかたちで構成できるかという点も重視した。また、観察したことを粘り強く記述し、最後まで描き切る姿勢も評価のポイントとした。

●面接

面接では、コミュニケーション能力および質問に対する意思疎通に問題がないかを確認し、本学科にて学習・制作を継続していくための基礎的な力を有しているかを評価のポイントとした。併せて、質疑応答を通して、受験者の特性、学習意欲、これまでの制作内容を確認し、多面的に評価した。

工芸工業デザイン学科

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、面接による審査

審査基準・評価ポイント

●面接

受験者のコミュニケーション能力および学習意欲を確認するとともに、持参作品の説明を通して、制作過程における思考力や表現力、作品に対する主体的な取り組みについて評価した。さらに、質疑応答を通じて受験者の特性や適性、今後の学修・制作への意欲を把握し、多面的かつ総合的に評価した。

空間演出デザイン学科

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、デザインおよび面接による審査

デザイン(3時間)

【問題】

溶けていく氷塊をイメージし、立体構成しなさい。

【条件】

1. 作品タイトルを台紙(B3スチレンボード5mm厚)右下に明記すること。
2. 配付された用紙(B3ケント紙×3枚、B3ボール紙×3枚)を自由に加工して、台紙(B3スチレンボード5mm厚)上に立体構成すること。
3. 配付された用紙は任意に使用すること(すべて使用しなくてもよい)。
4. 配付された両面テープは接着剤としてのみ使用すること。
5. 台紙は横長で使用するこ
6. 着色は任意とする。
7. 下書き用紙は作品に使用しないこと。

審査基準・評価ポイント

●デザイン

空間性と時間性を含むイメージを、紙という限定された素材によってどのように立体化し、台紙上に配置できるかを問う。形態の独自性のみならず、余白の扱い、全体のボリューム配分、視線の流れや重心の置き方など、オブジェクトの関係性を重視して評価する。また、構想を的確に構成へと結びつける思考力、素材特性に基づく加工の精度、作業の丁寧さや清潔さも重要な評価要素とする。

●面接

面接では、編入学・転部・転科後に本学科の教育内容とどのように接続し、主体的に学びを展開できるかを確認する。これまでの経験を踏まえた志望動機が明確であるか、専攻するコースやゼミへの理解と具体的な関心を言語化できているかを重視する。また、制作意図を論理的に説明する力、対話を通じて思考を深められる柔軟性、継続的に学ぶ意欲も総合的に評価する。

建築学科

選考方法

ポートフォリオの提出、デザインテストおよび面接による審査

デザインテスト(3時間)

【問題】

与えられた敷地図(別紙)に、下記の条件で、住宅を設計しなさい。

【条件】

- 敷地条件
 - 敷地面積：82.5m²
 - 接道：南側 4m
 - 高低差：敷地内は高低差なし(GL±0)
 - 用途地域：第1種住居地域(建蔽率60%・容積率150%)
 - 依頼主はル・コルビジェに興味があり、近代五原則(※1)をうまく設計に取り入れてデザインしてほしいとのこと。
(※1)「ピロティ」「自由な平面」「自由な立面」「水平連続窓」「屋上庭園」を指す。
- 設計条件
 - 延床面積：100m²以上
 - 家族：夫婦+子供1人(小学生1人)の計3人。
ゲストルーム一つ。
 - 駐車場：1台 駐輪場：数台
 - 構造：構造は自由
- 答案用紙は縦横自由

【要求図書】

下記の内容を答案用紙に記載すること。

- 設計意図を示すタイトルを付けること。
- 配置図兼1階平面図・各階平面図(縮尺：1/100)
- 断面図：1面以上(縮尺：1/50)
- 外観スケッチ：1カット以上
- 内観スケッチ：1カット以上
- 計画概要(建築面積、延床面積、構造種別)を
答案用紙に記載すること。

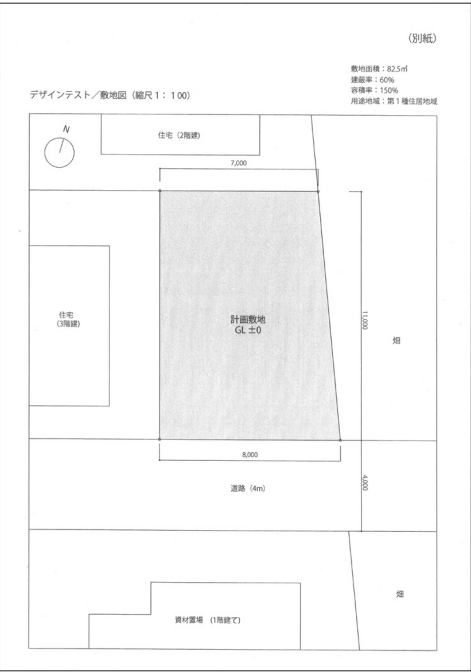
審査基準・評価ポイント

●デザインテスト

配付した敷地条件、諸々の要求条件を正しく理解した上で図面が作成されているか。平面計画、断面計画、作図(寸法、線種など)が正しくできているか。また、外観スケッチや内観スケッチが図面と整合性が取れているか。文字等に不備がないか等多岐にわたり正確性が求められる。限られた時間内での完成度も重要な評価ポイントとなっている。

【配付物】

- 試験問題
- 別紙(敷地図)×1枚
- 答案用紙(A2ケント紙)×1枚
- 下書き用紙(A3トレーシングペーパー)×2枚



●面接

志望理由をはじめ、建築に対しての姿勢や関心、創作意欲、将来の展望など基本的な質問を行い総合的に判断している。

基礎デザイン学科

選考方法

論文または制作物の提出、小論文および面接による審査

小論文(1時間30分)

【問題】

旅行では移動、交流、鑑賞などのなかで日常的な、あるいは非日常的ないろいろな体験をします。旅行において、あなたがいいなと思う体験の一つあげ、いいなと感じた理由について述べなさい。

【条件】

- 解答用紙の1行目に、適当なタイトルを記述しなさい。
- 文字数は、タイトルを含め、600字以内とする。

審査基準・評価ポイント

●小論文

論旨が明晰であること。日本語を正しく用いる能力が示されていること。そして自分の論じている観点について独自の表現、あるいは言葉を持っているかどうかを審査する。どこから借りてきたようなロジックや価値観の羅列ではなく、自分独自の

【配付物】

- 試験問題
- 原稿用紙×1枚
- 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

語り方や比喩表現など、説得力ある言葉で表現できているかどうかは大事な点である。また、外国からの受験生が増加している状況下では、まずは日本語が、問題なく正しく使えるかどうかという観点は、評価の基本でもある。

芸術文化学科

選考方法

ポートフォリオの提出、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

配付した文章は、詩人の大岡信が著した『抽象絵画への招待』(岩波書店 1985年)からの抜粋である。

この文章を読んで、筆者の考えを要約した後、今の時代においてどのような芸術が必要なのかについて、具体的な芸術家を挙げて、あなた自身の考えを1,000文字以内で述べなさい。なお、原稿用紙の1行目に16文字以内のタイトルをつけなさい。※別紙は非掲載とします。

【条件】

- 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。

審査基準・評価ポイント

●小論文

文中に示された筆者の考えを理解し、自分の体験から適切なテーマを設定して、具体的な事例を選定し、自分自身の考えを伝えられるかを意図している。評価のポイントは以下の通り。

- 別紙の文章に書かれた筆者の考えを適切に要約しているか。
- 問題の主旨を理解し、適切なテーマが設定されているか。
- 出題文の内容に適した具体的な芸術家を挙げることができるか。
- 自分自身の考えを客観的に認識できているか。
- 適切なタイトルが付けられているか。
- 文字数が適切で、誤字脱字がないか。

- タイトルも指定字数に含む。
- 氏名欄は全頁記入すること。

【配布物】

- 試験問題
- 別紙×1枚
出典：大岡信著『抽象絵画への招待』(岩波書店 1985年)、5～7頁
- 原稿用紙×1セット
- 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

●面接

以下のポイントから総合的に評価した。

- 志望に至った経緯と動機を的確に話すことができているか。
- 本学科の教育理念や授業内容をよく理解し、入学後の学習計画を持っているか。
- これまでの経験で得たアートやデザインに対する考えを話すことができるか。
- 卒業後の進路に対する意識があるか。
- 日本語でのコミュニケーションを十分に取ることができるか。

デザイン情報学科

選考方法

ポートフォリオの提出、小論文および面接による審査

小論文(1時間30分)

【問題】

近年、日本ではインバウンド観光が急速に拡大している。異なる文化的背景をもつ外国人観光客に対して、デザインはどのような役割を担いうるか、あなた自身の考えを具体的に論述せよ。その際、複数の観点を取り上げ、記述すること。

【条件】

1. 原稿用紙は横書きで使用する。
2. 原稿用紙の1行目に15字以内のタイトルを記入し、2行目から解答文を記入すること。
3. 文字数は、タイトルを含め、800字以内とする。

審査基準・評価ポイント

●小論文

問題文の趣旨を正確に理解し、何が問われているのかを的確に捉えた論述ができているかどうかが重要なポイントとなる。出題意図は、インバウンド観光の拡大という社会的状況を背景に、異文化間コミュニケーションにおけるデザインの役割を多角的に考察する力を見ることにある。社会的課題をデザインの視点から具体化し、複数の観点を踏まえながら、自身の考えを論理的に構成し、説得力のある解答ができているかを評価した。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

●面接

面接は本学科を志望した明確な理由と、編入学後にどのような領域を学び、いかに専門性を深めていきたいかについて、事前提出の志願確認書、ポートフォリオ等をもとに、質疑応答形式で実施する。これまでに培ってきた基礎的な学力を踏まえつつ、自らの考えを的確に伝え、対話を通して学びを深めていく姿勢を備えているか、さらに本学科の在学生と同等の修得レベルに達しているかについて判断し、総合的に評価する。

編入学
選抜

造形構想学部

クリエイティブイノベーション学科

選考方法

活動報告書の提出、面接による審査

審査基準・評価ポイント

●活動報告書・ポートフォリオ等

クリエイティブイノベーション学科の1・2年次におけるアート・デザイン領域の学びに相当する基礎的な知識・技能、制作経験、表現力を有しているかについて、活動報告書およびポートフォリオ等をもとに評価します。

●面接

本学科を志望した理由が明確であるか、また編入学後にどのような領域を学び、どのように専門性を深めていきたいかについて評価します。あわせて、これまでの学修・制作経験を踏まえ、自身の考えを的確に伝えられるかを確認します。

映像学科

選考方法

①第1次選考

作品(写真作品または映像作品)およびポートフォリオによる審査

②第2次選考

面接

審査基準・評価ポイント

●面接

これまで在籍した教育の場で、何をどのような姿勢で学び、何を会得し、なぜ本学科を志願したか。入学したら何をどう学び将来的にどこへ向かうことをイメージしているか、また、卒業後のプランはどうか、できるだけ具体的なビジョンについて語ってもらい、本学科で学ぶ適正を見極めたい。本人の趣味嗜好や、ものの考え方、オリジナリティ、制作への熱意など、本学科の環境を十分に生かして自ら成長できる資質を求めている。

美術専攻 美学美術史コース

選考方法

卒業制作または卒業論文の提出、小論文、外国語（英語）、専門基礎（筆記試験）および面接による審査

小論文（2時間）

【問題】

特定の作品が「名作」としての声価を確立するプロセスとして、どのようなものが考えられるか、具体例に即して述べなさい。
そのうえで、そうした「名作」は美術史研究において、どのように扱われるべきかについて、論じなさい。

（1,200字以内）

【条件】

1. 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. 氏名欄は全頁記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. 下書き用紙（B4上質紙）×1枚

外国語（英語）（1時間）

【問題】

以下の英文を日本語に訳しなさい。
※英文は非掲載とします。

【配付物】

1. 試験問題
2. 解答用紙×1枚
出典：David Bomford et al., Art in the Making: Impressionism, exh. cat., The National Gallery, London, in association with Yale University Press, New Haven and London, 1990, p. 27.

専門基礎（筆記試験）（1時間）

【問題】

次の事項の中から任意に5つを選び、各事項の説明を解答用紙に簡潔に記述しなさい。
1. アンフォルメル／2. イコノクラスム（聖像破壊運動）／3. 伊藤若冲／4. オディロン・ルドン／5. ガンダーラ美術／6. 喜多川歌麿／7. キュビズム／8. 国吉康雄／9. 信貴山縁起絵巻／10. 神護寺伝源頼朝像／11. ドイツ工作連盟／12. 埴輪 踊る人々（踊る埴輪）／13. パピエ・コレ／14. 菱田春草「落葉」（重要文化財）／

15. ビーテル・パウル・ルーベンス／16. フィリッポ・ブルネッレスキ／17. 藤田嗣治「アッツ島玉砕」／18. 法隆寺金堂壁画／19. メルツバウ／20. ハモ一夫

【配付物】

1. 試験問題
2. 解答用紙×1セット

審査基準・評価ポイント

●小論文

A日程は「名作」について、留意すべき点を問う出題である。美術作品を語る際によく用いられる言葉ではあるが、「名作」との評価は、折々の好尚や文脈を背景に形成されるため、作品の質や歴史的立場づけとは必ずしも一致しない。こうした問題点にどの程度意識的であるか、つまり美術史研究において、作家・作品を扱う基本的態度への理解度を測る設問である。

●外国語（英語）

英文和訳問題。例年200語前後の英文を出題している。難易度は英検2級程度で、英単語の高度な知識は求めないが、美術に関する英文をある程度読み慣れていることは必要である。問題文の論旨を捉えているかどうかの評価の基準であり、訳文は必ずしも一語一句正確でなくてもよい。比喩的表現が用いられている場合もあるため、辞書上の訳語にこだわらず、文意に即して適切な日本語に訳すことを心がけてほしい。

●専門基礎（筆記試験）

本問は、美術史・美学を学ぶうえで基礎となる重要な用語について、その意味を理解しているかを確認することを目的としている。評価にあたっては、単なる語句の暗記にとどまらず、用語がどの時代や文脈において用いられた概念であるか、その要点を自らの言葉で簡潔に説明できる力を重視する。

●面接

受験者1名ずつ、美学美術史コースの専任教員7名による20～30分程度の面接を行う。修士課程で研究したいテーマを具体的に説明してもらうことが主な目的だが、卒業論文または研究計画書の内容、あるいは作品に接した経験について尋ねる場合もある。決して雄弁である必要はなく、質問に落ち着いて答えることができればよい。なお留学生に対しては、面接での応答を通じて、修士課程で学ぶために必要な日本語能力の有無を判断する。

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

選考方法

① 第1次選考

ポートフォリオ、論文とその要旨（希望者のみ）の提出

② 第2次選考

小論文、面接

小論文（2時間）

【問題】

配布資料は、1914年にイタリアの詩人マリネッティ（1876-1944年）が発表した、『ザン トゥム トゥム（Zang Tumb Tumb）』という詩である。本書には、1912年のバルカン戦争におけるブルガリア人によるトルコの都市アドリアノーブルの攻囲の物語が書かれている。「ザン トゥム トゥム」とは大砲の砲撃の音を表していると考えられ、他にも汽車で線路の軋む音や電報を打つ音、叫びなどの音が多用されている。また、この本は詩人本人によって朗読されることが想定されており、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン史上、革新的なものとして評価されている。本書の視覚表現を一般的な書物や詩の朗読と比較したとき、どこが、どのように、なぜ優れているのだろうか。配布資料の図版を元にして、その特徴を具体的に分析し、自分の意見を述べよ。その際、当時の印刷技術や社会状況等も考慮に入れること。また、この作品を現代から見たときの価値や、この作品が提起する将来的な可能性についても言及すること。

文章のはじめに必ず表題（タイトル）をつけ、1,200字以内で記述すること。

※配布資料は非掲載とします。

審査基準・評価ポイント

●小論文

今回の小論文の出題にあたっては、以下のような能力を問うている。

1. 目の前にある研究対象を丁寧に観察し、自分の言葉で記述・分析することができる。
2. 自分の気づきを視覚伝達デザインの問題系につなげながら、歴史や社会的背景を含めて考えを広げることができる。
3. 論理的に思考を発展させ、規定の紙幅の中で説得力のある論考として書くことができる。

特に、一般論を書くのではなく、自分の目で見えて解釈したことを出発点として考えることができるかどうか。たとえ歴史的認識が間違っていたとしても、与えられた情報から仮説的な思考を紡ぎ出して思考を進められるどうかを重視している。

●面接

面接では以下の点を見ている。

- ・自分の作品と自己の特徴を見直した上で、それを論理的に語るができるかどうか。
- ・大学院修士課程を完遂するのに十分なコミュニケーションが取れるかどうか。
- ・本コースのカリキュラムを理解し、自己の研究テーマと結びつけて考えられているかどうか。
- ・研究計画に論理性があり、破綻がなく、またそれを十分に練ることができているかどうか。

デザイン専攻 建築コース

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、即日設計、小論文、プレゼンテーションおよび面接による審査

※希望指導教員によって受験する試験が異なります。

即日設計 (3時間)

【問題】

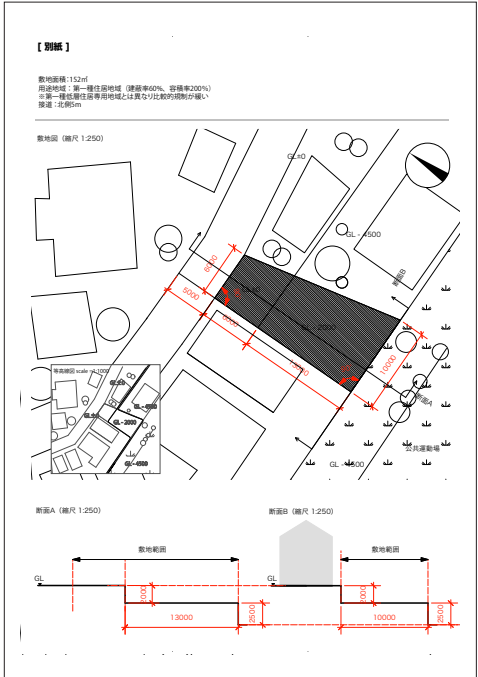
別紙の敷地に、下記の条件で住宅＋建築設計アトリエを設計しなさい。

【条件】

- 敷地条件
 - 敷地形状：南北19m、南端部10m、北端部6mの台形。2つの高低差のある敷地にまたがっている。北端側から6mは地盤面との地続きになっており、残りの敷地は地盤面-2mレベルにある。
 - 敷地面積：152m²
 - 接道：北側5m(東側は崖、西側は隣地に面し、南側は運動場に面しているため接道なし)
 - 用途地域：第一種住居地域(建蔽率60%、容積率200%)
 - 周辺状況：緑化された運動場に面しており眺望良し。周辺は一般住宅が多いが、小規模な事務所や飲食店などが点在している。
- 設計条件
 - 敷地形状や周辺環境を生かした計画であること
 - 敷地レベルを変更する土地の造成は不可
 - 延床面積：200m²以上、容積率の範囲内
 - 計画内容：住宅の面積130m²以上、事務所部分70m²以上 建築設計アトリエは主宰建築家1名、スタッフ3名が所属。
 - 設計意図を表すタイトルをつけること
- 設計意図を説明する下記の内容を表現すること
 - 各階平面図(縮尺1/100)平面図に敷地境界線を表記すること
 - 断面図(縮尺1/100)計画の特徴を表現する断面図を1面以上
 - 外観スケッチ(周辺敷地との関係がわかるアングルで表現)
 - 内観スケッチ(内部空間を表現する、あるいは外部との関係を示す表現にすること)
 - 説明文(200文字以内)
- 計画概要(敷地面積、延床面積、構造種別)を答案用紙に記載すること
- 答案用紙は縦横自由

【配付物】

- 試験問題
- 敷地平面図、断面図(別紙)
- 答案用紙(A2ケント紙)×1枚
- 下書き用紙(A3トレーシングペーパー)×3枚



小論文 (2時間)

【問題】

少子化・高齢化や人口減少により、都市や地方では、空き家や空き地(雑草地)、商店街のシャッター街といった「空白」が広がっている。これらの空間は、衰退や治安悪化といった課題を抱える一方で、新しい活用の可能性を秘めている。こうした状況を踏まえて、下記の問いに答えなさい。

(1)「空白」をポジティブに活かした事例を、日本または海外から具体的な事例を一つ以上挙げ、原稿用紙「小論文1」に200字程度で説明しなさい。

(2) 提示された写真の「空白」を参考にしながら、あなたが考える「空白をポジティブに活かす」提案をしてください。その際、利点と課題の両面を踏まえて、あなた自身の考えを原稿用紙「小論文2」に1,000字程度で述べなさい。また、内容に即した適切なタイトルを付けなさい(タイトルは文字数に含めない)。

※写真は非掲載とします。

【条件】

原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用すること。

審査基準・評価ポイント

●即日設計

出題意図は下記の通りである。

- 出題文から建築物の要求機能や周辺環境を正しく把握し、平面・立面・断面等各図面の中で設計表現する能力を見る
- 出題図より敷地形状や地形を正しく読み取り、土地の特徴を踏まえた設計能力を見る
- 制限時間内で設計構想や表現方法をまとめられる能力を見る

評価のポイントは下記の通りである。

- 出題文に求められる要件を満たすように各図面が過不足なく描けているか
- 制約条件の範囲内で創造性のある建築空間を設計できているか
- タイトルや設計趣旨、空間構成を示すダイアグラムやドローイング等を用いて自分の設計を他者に共有できる魅力的な表現ができているか

【配付物】

1. 試験問題

出典：

(1) 写真の上2枚

さんたつby散歩の達人 空き地は別世界に通ずる窓。

小澤啓さんに伺う「空き地の魅力」

https://san-tatsu.jp/articles/308296/#goog_rewarded

(2025年9月2日参照)

(2) 写真の下1枚

商店街創生センター 魅力紹介【第14号】まいまい堂店主

横川知子さん

<https://syoutengai-c.com/introduction-article/maimaido-tomoko-yokogawa/>

(2025年9月2日参照)

2. 原稿用紙×3枚1セット

※「小論文1」×1枚、「小論文2」×2枚をステープラー留め

3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

●小論文

人口減少に伴い生じる空き家・空き地・シャッター街などの「空白」を社会的課題として理解し、その可能性を多面的に考察できる力を評価することを目的とする。

設問①では具体的事例を適切に理解し説明する力を、設問②では提示された状況を踏まえ、自らの視点から考察する力を問う。

課題の理解に基づき、具体的な状況を踏まえて、自らの考えを論理的に述べる力を総合的に評価する。

●面接

自身のポートフォリオ掲載作品の中から1つ選び、その作品についてプレゼンテーションをすることを通じて、建築設計に対する独自性のある思考力やプレゼンテーションの構成能力を確認する。また質疑を通じて、大学院入学後の授業受講に必要な基礎知識の確認や、学生生活を円滑に送ることができるコミュニケーション能力の有無を重視する。

デザイン専攻 デザイン情報学コース

選考方法

ポートフォリオの提出、外国語(英語)、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

下記の文章は、ゲームスタディーズを専門とする研究者のミゲル・シカルが、遊びの特性や効果、重要性を述べた著作において「遊び心(Playfulness)」について言及したものである。
※引用文は非掲載とします。

あなたが考える「遊び心のあるデザイン」の具体例の一つ挙げ、その特徴を説明しなさい。(例:日用品、アプリケーション、家具、広告、建築、インタラクティブ作品など)

また、遊び心をデザインに取り入れることの利点と欠点を、あなた自身の観点に基づいて論じなさい。

最後に、あなた自身の研究・実践において、「遊び心」をどのような位置づけ、また扱うべきであるか考えるかを述べなさい。

(1,200字以内)

【条件】

1. 原稿用紙は指定字数に従って横書きで使用するこ
2. タイトルは原稿用紙の1行目に記入し、2行目から解答文を記入すること。タイトルは指定字数に含む。

【配付物】

1. 試験問題
出典:ミゲル・シカル著、松永伸司訳『プレイ・マターズ 遊び心の哲学』(フィルムアート社、2021年)、42頁(ルビの省略など一部改変)
2. 原稿用紙(A3)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

外国語(英語)(1時間)

【問題】

以下の英文を日本語に訳しなさい。ただし、太字の見出し部分(Candlelight and lacquerware)は訳さなくてよい。

＊解答用紙のみ提出しなさい。

※英文は非掲載とします。

【配付物】

1. 試験問題
出典:Junichiro Tanizaki著、Gregory Starr 訳『In Praise of Shadows: The classic essay on Japanese aesthetics』(Sopra Books出版) p.35-36より抜粋.
2. 解答用紙×1枚

審査基準・評価ポイント

●小論文

小論文では、与えられた設問の意図を正確に理解し、自らの視座に基づく見解を提示できているかを審査する。併せて、個人的関心に閉じることなく多角的に論じることができる批評力および考察力を重視するとともに、正確な語彙と文法を用い、論理的かつ明瞭に論述できる言語表現力についても総合的に評価する。

●外国語(英語)

外国語(英語)は、英文を日本語に翻訳する問題とする。辞書の持ち込みを可とし、英文の内容理解および適切な日本語表現の能力を測る。

●面接

面接は質疑応答形式で実施し、志望動機、研究テーマ、およびその具体的な方法について説明を求める。併せて、これまでの学習内容や研究実績について確認する。研究計画の妥当性および実現可能性、論理的思考力、主体的な実行力、今後の発展可能性、ならびに本コースの教育内容・研究指導体制との適合性等を総合的に評価する。なお、外国人留学生志願者については、上記の質疑応答を通じて、入学後の授業履修および研究指導に必要な日本語の理解力および表現力を確認する。

美術専攻 日本画コース

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、素描、小論文および面接による審査

素描(6時間)

【問題】

「日本画」を描きなさい。

【条件】

1. 答案用紙は縦横自由。
2. 答案用紙の裏面中央に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

小論文(2時間)

【問題】

近代以降の日本美術では、一般に「写実性」が重視されてきました。他方で、日本美術の伝統的な特徴として、「装飾性」が指摘されています。

この写実性と装飾性の関係をどう考えますか。過去の有名な作品や、あなた自身の制作体験に即して、具体的に論じなさい。(800字以内)

審査基準・評価ポイント

●素描

今回の「日本画」を描きなさいという真正面からの問いを、どのように受け止めるのか。「日本画」を言葉で説明することよりも、どのような解釈で表現に結び付けることができるのかを求めており、安易な日本的なイメージの羅列では短絡的だが、「日本画」の意味にこだわり過ぎずに、どれだけ独自の表現として描き切ることができているかを注視し、従来同様に基礎的な描写力、構成力なども含めた絵画表現として総合的に判断する。

●小論文

「日本画」を志す以上、ジャンルの特質や成り立ちについて、一定の見識を備えていることが望まれる。「日本画」は近代以降に形成されたジャンルであり、西洋絵画やそれを基盤とする「洋画」を意識し、なおかつ古くからの日本の美術を見直しながら、展開してきた。今回の小論文は、その両面に関係する「写実性」「装飾性」をキーワードとして投げかけ、どの程度、「日本画」と向き合ってきたかを測る設問である。

●面接

面接試験は、外国人留学生を含む受験生数名ずつのグループディスカッション形式で実施され、提示されたテーマについて受験生同士が一定時間議論を行う。これは議論の内容やその過程を通して、美術に対する理解や思考の展開、他者とのコミュニケーションのあり方などを総合的に確認することを目的としている。

各グループごとにテーマが与えられ、今回は「日本画」という概念の歴史的背景や現在の位置づけ、絵画との関係、伝統美術と現代美術の関係、さらには欧米と東洋の美術観の違いやAI

と芸術表現との関係など、芸術を取り巻く多様な視点が含まれたものとなっている。これらの問いは、日本画をめぐる歴史的・文化的文脈をどのように理解し、現代の芸術表現との関係の中でどのように思考しているかを見ることを意図している。

評価のポイントは、まず与えられたテーマに対して、自身の経験や問題意識をもとに考えを整理し、論理的に言語化する力にある。また、異なる文化的背景や価値観を持つ受験生同士が議論を行う状況の中で、他者の意見を受け止めながら思考を深め、対話を通して自らの考えを発展させていく姿勢も重要な評価の視点となる。

日本画を学ぶ場においては、特定の表現方法や価値観に限定されるのではなく、歴史や文化、社会との関係を踏まえながら芸術表現を広い視野から捉え、主体的に思考を展開していく態度が求められる。本試験は、そのような造形的思考力と対話的な思考のあり方を確認することを意図したものである。

美術専攻 油絵コース

選考方法

ポートフォリオの提出、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

自分にとって重要な絵画技法、あるいは描画材料の種類をひとつ挙げてください。その特性について具体的に述べてください。(800字以内)

【条件】

原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用するこ

審査基準・評価ポイント

第1次選考では、自身の制作活動をA4サイズのクリアファイル1冊にまとめたポートフォリオを審査の対象とする。評価ポイントとしては「自らテーマを設定し、モチーフ、発想、造形などにおいて、独創的な作品制作活動を行なっているか」また「質の高い制作活動を継続的にを行い、本学入学後にそれをさらに展開させようとする意欲と柔軟性があるか」など。

●小論文

日々積み重ねてきた自身の制作において重要な、技法ないし描画材料の種類を1つ限定して挙げた上で、その特性を、自身の制作過程および作品を通して捉え、客観的に言語化して論じているかどうかを問うた。そのために他者の作品を比較例として

用いることは構わない。これまでの制作活動の厚みが文章に反映されるだろう。併せて文章の構成力、表現力を確認する。

●面接

最初に提出作品について簡潔に説明をしてもらった後、作品制作全般のことや、そこから派生する自身の興味について述べてほしい。また本学へ入学後にどのような制作をしたいのか、将来の展望などをできるだけ具体的に聞いてみたい。

評価ポイントとしては「幅広い造形力や教養、独自性を有し、自らの専門性をさらに深化、展開させようとしているか」「造形芸術の研究・表現者として、広く表現の世界や国際社会等で活躍しようとする意欲を持っているか」など。

美術専攻 版画コース

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

版画表現と社会との関わりについて、具体的な事例を示しながら述べてください。(800字以内)

【条件】

原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用するこ

審査基準・評価ポイント

●小論文

評価にあたっては、「戦後版画運動」や「教育版画運動」といった民衆版画との関わり、あるいは印刷術、ポスター、写真製版による複写を通じた版画のあり方など、版画表現が持つ歴史や社会との多様な接続への理解が示されているかを重視した。単なる知識の列挙にとどまらず、具体的な事例をもとに自らの考えを論じられているかが評価の軸となった。また、限られた字数の中で論点を絞り込み、簡潔かつ論理的に文章を構成する能力も評価対象とした。

●面接

面接においては質問に対して流暢に話す必要はなく、拙くてもよいので、自分の言葉でしっかりと話すことが望まれる。また、提出作品やポートフォリオ掲載作品などの制作意図を限られた時間の中で、簡潔かつ、明確に伝えることが重要である。自分の表現の方向性を十分アピールしてほしい。入学後に、学生個々が自主的に立案した研究計画を、自らの力で課題解決にあたりながら、実現に向けて主体的に進めていくことができる資質の有無を見極めることが面接の目的である。最終的には面接とともに、提出作品やポートフォリオなどから読み取れる造形力などを総合的に審査し、判断する。

美術専攻 彫刻コース

選考方法

作品・ポートフォリオの提出、デッサン、小論文および面接による審査

デッサン(6時間)

【問題】

与えられた用紙の中に、これから展開しようとする自己の作品を実物大で描きなさい。
なお、全体が入りきらない場合は、主要部を描くこと。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(90cm×180cm画用紙)×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×3枚

【条件】

1. 描画材は自由。
2. 答案用紙(画用紙)は縦横自由。
3. 答案用紙の裏面に、画面の「上」を示す矢印「↑」を書くこと。

小論文(2時間)

【問題】

彫刻を彫刻たらしめているのは何だと思いますか。
これまでの制作経験を踏まえて、自分の考えを述べなさい。
(800字以内)

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

【条件】

原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用するこ

審査基準・評価ポイント

●デッサン

これまで追究してきた問題意識を、大学院でどのように継続、深化させたいのか。この観点から
・現時点で構想する作品(計画)のオリジナリティ、具体性、説得力
・デッサンの中でそれを表現し得る技量を解答から問う。

●小論文

彫刻とは何かという根源的な問いについて、自らの制作体験や鑑賞体験に基づいて考え、それを言語化し、論述してもらうことを目的とした。評価にあたっては、一般論として述べるのではなく、これまでの自分自身の経験を踏まえながら、作品制作や鑑賞を通じて、彫刻の本質をどこまで自覚的に捉え、考察し、論理的に論述できているかを重視した。

●面接

追究してきた問題意識を継続性のある研究と批評的な視点から深め、その成果を社会に発信でき得る人物を求めている。この観点から
・追究してきた問題への解決能力、およびその具体案(研究計画)の独創性
・研究計画の具体性と可能性、モチベーション
・研究の継続、深化、発信に必要なコミュニケーション能力を面接から確認する。

美術専攻 美学美術史コース

選考方法

卒業制作または卒業論文の提出、小論文、外国語(英語)、専門基礎(筆記試験)および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

美術史研究において、作家・作品の関係を「影響」の概念で説明しようとする場合、どのようなことに気を付けるべきか。具体例を挙げて論じなさい。(1,200字以内)

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

【条件】

1. 原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用するこ
2. 氏名欄は全頁記入すること。

外国語(英語)(1時間)

【問題】

以下の英文を日本語に訳しなさい。
※英文は非掲載とします。

【配付物】

1. 試験問題
出典：Mark Rothko, “The ideal teacher” (ca. 1941), in Miguel López-Remiro (ed.), Mark Rothko. Writings on Art, Yale University Press, New Haven and London, 2006, p. 22.
2. 解答用紙×1枚

専門基礎(筆記試験)(1時間)

【問題】

次の事項の中から任意に5つを選び、各事項の説明を解答用紙に簡潔に記述しなさい。
1.アントワーン・ヴァトー／2.インターナショナル・スタイル／3.縋綱(暁綱)彩色／4.神奈川沖浪裏／5.狩野山楽／6.興福寺阿修羅像／7.シュルレアリスム／8.新印象主義／9.鈴木長吉／10.大正期新興美術運動／11.竹内栖鳳／12.デ・スティル／13.南蛮屏風／14.パウハウス／15.白衣観音／16.フレスコ画／17.ミケランジェロ・ブオナローティ／18.来迎図／19.竜門石窟／20.ロマネスク美術

審査基準・評価ポイント

●小論文

B日程は「影響」について、留意すべき点を問う出題である。美術作品を語る際によく用いられる言葉ではあるが、「影響」の語は、作家・作品相互の関係を単純化する危うさを持つ。こうした問題点にどの程度意識的であるか、つまり美術史研究において、作家・作品を扱う基本的態度への理解度を測る設問である。

●外国語(英語)

英文和訳問題。例年200語前後の英文を出題している。難易度は英検2級程度で、英単語の高度な知識は求めないが、美術に関する英文をある程度読み慣れていることは必要である。問題文の論旨を捉えているかどうかの評価の基準であり、訳文は必ずしも一語一句正確でなくてもよい。比喩的表現が用いられている場合もあるため、辞書上の訳語にこだわらず、文意に即して適切な日本語に訳すことを心がけてほしい。

●専門基礎(筆記試験)

本問は、美術史・美学を学ぶ上で基礎となる重要な用語について、その意味を理解しているかを確認することを目的としている。評価にあたっては、単なる語句の暗記にとどまらず、用語がどの時代や文脈において用いられた概念であるか、その要点を自らの言葉で簡潔に説明できる力を重視する。

●面接

受験者1名ずつ、美学美術史コースの専任教員7名による20～30分程度の面接を行う。修士課程で研究したいテーマを具体的に説明してもらうことが主な目的だが、卒業論文または研究計画書の内容、あるいは作品に接した経験について尋ねる場合もある。決して雄弁である必要はなく、質問に落ち着いて答えることができればよい。なお留学生に対しては、面接での応答を通じて、修士課程で学ぶために必要な日本語能力の有無を判断する。

美術専攻 芸術文化学コース

選考方法

研究計画書および論文の提出、小論文、外国語(英語)および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

別紙の文章は、イギリスの批評家ジョン・バージャーが、芸術作品を判断する基準について論じた小文「理想的な批評家と闘う批評家」(『批評の「風景」』山田美明訳、草思社、2024年に所収、原文は1959年に発表)からの抜粋である。この文章を読んで、まず、著者の主張に対するあなたの意見を述べた後に、芸術作品と社会的権利との関係についてのあなた自身の考えを、具体的な事例や自身の体験を交えながら、本文と関連付けて1,200字以内で述べなさい。その際、必ず20字以内のタイトルをつけなさい。

※別紙は非掲載とします。

【条件】

1. 原稿用紙は指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. タイトルは指定字数に含む。
3. 氏名欄は全頁記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 別紙×1枚
出典：ジョン・バージャー『批評の「風景」』山田美明訳、草思社、2024年、198-205頁。
3. 原稿用紙×1セット
4. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

外国語(英語)(1時間)

【問題】

次の英文を日本語に訳しなさい。

※英文は非掲載とします。

【配付物】

1. 試験問題
出典：Beryl Graham, Sarah Cook, Rethinking Curating: Art after New Media, The MIT Press, 2015, p.109.
2. 解答用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

審査基準・評価ポイント

●小論文

芸術文化学コースの中心的な課題である「芸術文化を社会で活用する」に関連して、課題文が論じる、芸術文化と社会との関係についての各自の考え方を幅広く問うた。以下のポイントから総合的に評価した。

- ・論理的な文章構成、明解で適切な表現・表記、タイトルの設定が行われているか。
- ・課題文の趣旨を理解し、重要な論点を適切に抽出できているか。
- ・設問の趣旨を理解し、適切なテーマを設定し、論じているか。
- ・自己の具体的な体験や知見に基づいて、客観的に自己の主張を展開できているか。
- ・誤字脱字がなく、読みやすさへの留意が適切に行われているか。

●面接

以下のポイントから総合的に評価した。

- ・芸術文化学コースの教育理念やカリキュラムをよく理解しているか。
- ・志望に至った経緯と動機を的確に話することができるか。
- ・入学後の研究テーマ、研究計画、将来の目的意識が明確であるか。
- ・芸術文化に関する基礎的な専門性、社会に対する多様な関心を持っているか。
- ・主体的な行動力によって専門性を高め、研究を推進しようとする意欲があるか。

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

選考方法

①第1次選考

ポートフォリオ、論文とその要旨(希望者のみ)の提出

②第2次選考

小論文、面接

小論文(2時間)

【問題】

近年、生成AI等の技術的な進歩に注目が集まる中で、人間の創造によってもたらされるデザインの独自性がどこにあるのかが、大きな問題となっています。またそれに伴い、二次創作や剽窃(盗用)等の問題も議論されています。

そのような中で、視覚伝達デザインにおける「オリジナリティ」とは何か、あなたの考えを述べなさい。(1,200字以内)

【条件】

1. 原稿用紙は指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. タイトルは原稿用紙の1行目に記入し、2行目から解答文を記入すること。タイトルは指定字数に含む。
3. 氏名欄は全頁記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

審査基準・評価ポイント

●小論文

今回の小論文の出題にあたっては、以下のような能力を問うている。

1. 問題文に問いに対する一般的な解釈を的確に行うことができる。
2. 視覚伝達デザインの問題へと思考を展開することができる。
3. 独自の解釈を説得力を持った論述として展開することができる。

上記1〜3は個別に必要な能力ではなく、連続した思考として展開されるものである。それは大学院での研究においても必要とされる能力であり、すでに一般化されている理論を正確に理解しながらも、最終的には独自の視点に基づいた論述へと発展させることができるかどうかを重視している。

●面接

面接では以下の点を見ている。

- ・自分の作品と自己の特徴を見直した上で、それを論理的に語るができるかどうか。
- ・大学院修士課程を完遂するのに十分なコミュニケーションが取れるかどうか。
- ・本コースのカリキュラムを理解し、自己の研究テーマと結びつけて考えられているかどうか。
- ・研究計画に論理性があり、破綻がなく、またそれを十分に練ることができているかどうか。

デザイン専攻 工芸工業デザインコース

選考方法

研究計画書、作品・ポートフォリオの提出、構想力テストおよび面接による審査

構想力テスト(3時間)

【問題】

「変わらないこと」をテーマにあなたの志望研究領域を活かしてデザインしなさい。

【条件】

1. 答案用紙の①タイトル欄に20字以内の題名を記入すること。
2. 答案用紙の②本文欄に「変わらないこと」とは何かを明確にして、作品のコンセプトを記入すること(400字以内)。
3. 答案用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
4. 構想を伝えるスケッチをスケッチ用紙に描くこと。
5. スケッチ用紙に描くスケッチの点数は自由とする。
6. スケッチ用紙は横長で使用する。
7. スケッチ用の画材は自由とする。
8. 答案用紙・スケッチ用紙の両方とも提出すること。

審査基準・評価ポイント

●構想力テスト

工芸工業デザインは社会生活と密接に関わる領域であり、社会や技術の急速な発展に伴って、デザインにも常に変化が求められてきた。本課題では、そのような状況の中で「変わらないもの」をどのように捉え、理解し、デザイン提案へと展開できるかを問う。スケッチと400字程度の説明文を総合的に評価した。与えられたテーマを理解し、独自の視点からデザインを発想できている作品を高く評価した。また、スケッチの画力や構成力も重要な評価対象とした。一方で、既成のアイデアを引用したり、スケッチの意図や内容が伝わりにくい作品、説明文に論理性を欠き、日本語表現が不十分であると判断された作品については、評価が低くなった。

【配付物】

1. 試験問題
2. 答案用紙(B4)×1枚
3. スケッチ用紙(B3アラベール紙)×1枚
4. 下書き用紙(B4上質紙)×4枚

●面接

面接においては受験生を知ることが目的としているため、研究内容だけでなく、さまざまな内容の質問がされ、2年間の研究において成果を期待できるか適性を見る。研究内容、過去の作品(ポートフォリオ)、および提出作品を総合的に評価し、志望する研究分野と本学科の適合性についても確認を行った。また、留学生については、面接を通してコミュニケーション能力および質疑応答に対する意思疎通に支障がないかを確認した。併せて、本コースにおいて研究および制作活動を継続するために不可欠な日本語能力を有しているかを重要な評価項目とした。

デザイン専攻 空間演出デザインコース

選考方法

ポートフォリオの提出、立体構成および面接による審査

立体構成(3時間)

【問題】

「 と 」について自由に表現しなさい。

【条件】

1. 「 と 」の は、日本語で自由に言葉を考えること。
2. 「 と 」の言葉は、反対の意味であること。
3. 配付されたスチレンボード(3mm厚)、ケント紙を使用して立体をつくり、台紙(スチレンボード5mm厚)上に立体構成すること。
4. 台紙に制作物を固定すること。
5. 台紙の右下に、その言葉を入れた「 と 」を記入すること。
6. 着色は任意とする。
7. 原稿用紙に「 と 」についてあなたの考えを100字以内で述べなさい。

審査基準・評価ポイント

●立体構成

本課題は反対の意味を持つ2つの言葉を設定し、その概念を立体構成によって表現することによって、発想力・構想力・造形力を総合的に評価することを目的としている。言葉という抽象的な概念を立体造形へと置き換えることを通して、物事の独自の捉え方や考えをかたちにする表現力と空間構成力を評価する。また、スチレンボード、ケント紙を使用して加工制作を丁寧に行うことができるか確認する。さらに原稿用紙に100字以内で自分の考えをまとめることは、設定した言葉の意味や制作意図を言語化する力を測ることも狙いとしている。

【配付物】

1. 試験問題
2. スチレンボード(B3サイズ、3mm厚)×1枚
3. ケント紙(B3)×2枚
4. 台紙用スチレンボード(B3サイズ、5mm厚)×1枚
5. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚
6. スチレンのり×1本
7. 両面テープ×1個
8. 原稿用紙100字×1枚

●面接

独自の視点に基づく創造性を最重視し、制作や活動を専門的知見から日本語で、論理的かつ的確に記述・説明できる能力を厳格に問う。入学後の計画や将来展望に強い意欲が示されているか、ポートフォリオと自己の価値観・背景が一貫しているかを評価し、高度な研究適性と本学への適合性を総合的に判断する。

デザイン専攻 基礎デザイン学コース

選考方法

ポートフォリオの提出、小論文、外国語(英語) および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

あなたの研究・制作テーマを40～60字程度で要約し、その研究・制作が社会にとって、どのような意義、価値や重要性を持つかを述べなさい。

(600字以内)

【条件】

原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用するこ

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙(B4上質紙)×1枚

外国語(英語)(1時間)

【問題】

以下の英文は、グラフィックデザイナーであり、ウルム造形大学の創設者であるオトル・アイヒャーの著作『タイポグラフィ』のカバーの文章である。

これをすべて和訳しなさい。

※英文は非掲載とします。

【配付物】

1. 試験問題
出典：Otl Aicher, 'Typographie' (Berlin: Ernst & Sohn, 1988).
2. 解答用紙×1枚

審査基準・評価ポイント

●小論文

論旨が明確であること。日本語を正しく用いる能力が示されていること。そして自分の研究領域に関して独自の表現、あるいは言葉を持っているかどうかを審査する。どこかから借りてきたようなロジックや価値観の羅列ではなく、自分独自の語り方や比喩表現など、説得力ある言葉で表現できているかどうかは大事な点である。また、外国からの受験生が圧倒的に多い状況下では、まずは日本語が、問題なく正しく使えるかどうかという観点は、評価の基本でもある。

●外国語(英語)

基礎デザイン学コースでは、例年、美術やデザインに関する論文、評論、エッセイなどの英文テキストの抜粋を和訳する課題を、外国語試験として実施している。この試験は、修士研究を進める上で必要となる、英語の文献や資料の主旨を把握し、個々の文章を正確に読解する力を確かめることを目的としている。試験では補助的に辞書の使用を認めているが、これは不明な単語の確認に過度な時間を費やすことなく、文章全体の理解と翻訳に集中してもらうためである。全訳できることは重要であるが、仮にすべてを訳し切れなかった場合でも、テキスト全体の主旨を理解しているか、また個々の文章を丁寧かつ的確に訳出できているかが評価のポイントとなる。

造形構想専攻 クリエイティブリーダーシップコース〔一般方式〕

選考方法

活動実績および研究計画の提出、小論文および面接による審査

小論文（2時間）

【問題】

近年の気候変動、政治経済の動向やインフラ整備の状況に起因して、日常の健全な食生活を維持することが困難になっている。

あなたの住んでいる国、または地域の食の問題についての課題を列挙の上、独自の視点で分類し、これからの豊かな食生活の維持に関する、食を支えるイノベーションの可能性を論ぜよ。
(日本語で解答する場合1,200字以内、英語で解答する場合600ワード以内)

【条件】

1. 日本語または英語のどちらか一方のみで解答すること。
2. 日本語で解答する場合は、指定の原稿用紙に記入すること。
原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
3. 英語で解答する場合は、指定の英語解答用紙に記入すること。
4. 氏名欄は全頁記入すること。

審査基準・評価ポイント

●小論文

食の問題は、一次産業における気候変動や食料自給率の低下や、二次産業、三次産業における食品ロスと需給バランスなど産業構造上の視点だけでなく、健康や孤食などを産む現代のライフスタイルの視点などからも捉えることができる。本設問は、社会に対する受験者の関心の広さと分析力、そして独創的なアイデアで解決しようとするポジティブな創造性の両面を評価のポイントとして出題した。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. 英語解答用紙×1枚
4. 下書き用紙（B4上質紙）×2枚

●面接

志望動機が本コースの提供する学修内容や目標と一致していることを大前提とした上で、これまでの経験や実績を踏まえ、本コースの大学院生として、教員の指導のもと、他の学生と協力してアカデミックポリシーに沿った学修を行う能力や状況にあるか、および、研究計画にオリジナルの観点と実現可能性があり、修士研究を実施し、ディプロマポリシーに合致した修士研究にまとめる十分な能力があることがうかがえるかを総合的に評価する。

造形構想専攻 クリエイティブリーダーシップコース〔社会人方式〕

選考方法

活動実績および研究計画の提出、小論文および面接による審査

小論文（2時間）

【問題】

国や地域をまたぐ自由な移動の価値が再確認される一方で、移動格差や環境負荷についても無視することができなくなっている。

これらを踏まえ、私たちの豊かな暮らしにつながる移動の価値について複数の視点で考察し、そのうち重要と考えるテーマを選び、具体的な解決策と社会変化の新たな可能性を論ぜよ。
(日本語で解答する場合1,200字以内、英語で解答する場合600ワード以内)

【条件】

1. 日本語または英語のどちらか一方のみで解答すること。
2. 日本語で解答する場合は、指定の原稿用紙に記入すること。
原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
3. 英語で解答する場合は、指定の英語解答用紙に記入すること。
4. 氏名欄は全頁記入すること。

審査基準・評価ポイント

●小論文

移動はオーバーツーリズムや体験格差、地方と都市の関係、移住やデジタルノマドなど、社会問題から働き方、生活様式の変化にまで広く関わる、国を問わず今日的なテーマである。本問は、移動がもたらす恩恵とその陰で生じる負の側面の双方を視野に入れ、自らの問題意識に基づいてテーマを絞り込み、実現への道筋とその先の展望までを一貫した論として組み立てる力を問うものである。評価にあたっては、課題の指摘における具体性のある理解、提示された解決策の独自性と論理的妥当性を重視した。

●面接

志望動機が本コースの提供する学修内容や目標と一致していることを大前提とした上で、これまでの経験や実績を踏まえ、本コースの大学院生として、教員の指導のもと、他の学生と協力してアカデミックポリシーに沿った学修を行う能力や状況にあるか、および、研究計画にオリジナルの観点と実現可能性があり、修士研究を実施し、ディプロマポリシーに合致した修士研究にまとめる十分な能力があることがうかがえるかを総合的に評価する。

造形構想専攻 映像・写真コース

選考方法

作品（写真作品または映像作品）、ポートフォリオの提出、面接による審査

審査基準・評価ポイント

提出されたポートフォリオや動画から、これまでの制作や研究の質と量、テーマやプロセス、独自の視点や美意識、表現スキルと能力、成長の可能性について測る。

●面接

これまで在籍した教育の場でどのような意識と姿勢をもって何を学び獲得したか、本コースを志願する理由、自身の研究や制作のテーマ、本コースのこういった条件や環境が自身の学びや表現に適し成長の糧になると考えるか、修了後のプラン…などについて具体的に語ってもらい、本人の価値観、思考、独自性、制作への熱意とともに本コースで成長できる資質を見極めたい。留学生については、日本語のコミュニケーション力を重視する。

造形構想専攻 クリエイティブリーダーシップコース[一般方式]

選考方法

活動実績および研究計画の提出、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

まちには様々な公園がある。地域の人口分布や場所の特性、私有地や役所という所有者の意図により、市民にとっての意味や使い方も多様になっている。あなたの住んでいる地域の「公園」に関して、独自の視点で公園を分類し課題を列举した上で、これからの社会における新たな公園の可能性を論ぜよ。

(日本語で解答する場合1,200字以内、英語で解答する場合600ワード以内)

【条件】

1. 日本語または英語のどちらか一方のみで解答すること。
2. 日本語で解答する場合は、指定の原稿用紙に記入すること。
原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
3. 英語で解答する場合は、指定の英語解答用紙に記入すること。
4. 氏名欄は全頁記入すること。

審査基準・評価ポイント

●小論文

日本および、人口減少や少子高齢化といった社会課題に直面している国を中心に、公共のあり方が見直されている。その中で、受験者いずれにとっても身近な「公園」という具体的な公共空間を通して、できるだけ多くの課題を指摘する視野の広さと分析力、そして独創的なアイデアで解決しようとするポジティブな創造性の両面を評価のポイントとして出題した。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. 英語解答用紙×1枚
4. 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

●面接

志望動機が本コースの提供する学修内容や目標と一致していることを大前提とした上で、これまでの経験や実績を踏まえ、本コースの大学院生として、教員の指導のもと、他の学生と協力してアカデミックポリシーに沿った学修を行う能力や状況にあるか、および、研究計画にオリジナルの観点と実現可能性があり、修士研究を実施し、ディプロマポリシーに合致した修士研究にまとめる十分な能力があることがうかがえるかを総合的に評価する。

造形構想専攻 クリエイティブリーダーシップコース[社会人方式]

選考方法

活動実績および研究計画の提出、小論文および面接による審査

小論文(2時間)

【問題】

人類にとって休暇の意味とは何か。その意味をできるだけ多様に紹介したうえで、あなた独自の観点で休暇に関わるこれまで語られていない可能性について論じてください。

(日本語で解答する場合1,200字以内、英語で解答する場合600ワード以内)

【条件】

1. 日本語または英語のどちらか一方のみで解答すること。
2. 日本語で解答する場合は、指定の原稿用紙に記入すること。
原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
3. 英語で解答する場合は、指定の英語解答用紙に記入すること。
4. 氏名欄は全頁記入すること。

審査基準・評価ポイント

●小論文

ここ数回続いていた、社会課題をやや具体的に提示してそれに対する分析とその分析に基づく提案を求める問題とはやや傾向が異なるが、すでに社会的に問題になっている事象ではなく、あまり社会課題として明示的に議論されることのないテーマを提示してそれに対する深い思考力を問うことを意図した。深い思考力を問うことを目的としているが、出題内容をよく読み、そこで期待されていることを十分に抑えた解答をすることがこれまでと同様に前提となっており、その論理性や、提案のオリジナリティとその価値が文章構成からも読み取れることが評価のポイントになっている。

●面接

志望動機が本コースの提供する学修内容や目標と一致していることを大前提とした上で、これまでの経験や実績を踏まえ、本コースの大学院生として、教員の指導のもと、他の学生と協力してアカデミックポリシーに沿った学修を行う能力や状況にあるか、および、研究計画にオリジナルの観点と実現可能性があり、修士研究を実施し、ディプロマポリシーに合致した修士研究にまとめる十分な能力があることがうかがえるかを総合的に評価する。

造形構想専攻 映像・写真コース

選考方法

作品（写真作品または映像作品）、ポートフォリオの提出、小論文および面接による審査

小論文（1時間30分）

【問題】

直線と曲線をテーマにして、あなたが考えることを論じなさい。
（600字以内、タイトルを20字以内で記入すること）

【条件】

1. 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. タイトルは原稿用紙の1行目に記入し、2行目から解答文を記入すること。タイトルは指定字数に含む。

審査基準・評価ポイント

提出されたポートフォリオや動画から、これまでの制作や研究の質と量、テーマやプロセス、独自の視点や美意識、表現スキルと能力、その成長について測る。

小論文では、与えられたテーマを抛り所に、独自の持論を展開してもらう中で、論理的な思考と結論づけ、日本語による明確で適切な表現力を評価する。

学部や学部研究生など学内進学者が対象であることから、これまでの授業やゼミなどへの取り組み姿勢や成果を重視する。

●小論文

本コースは、多様な方向性を重んじていて、受験者の指向もさまざまである。過去には、映画監督、写真家、思想家などの短い引用を踏まえて論じなさい、という出題が続いた。見かけ上の出題傾向は変わったように見えるが、意図は変わっていない。日ごろの創作活動を通して、受験者がどこまで深く物事を見つめ、イメージと格闘し、言語化しているか等を問いたい。日本語の記述能力が一定レベルに達しているかも重要なポイントとなる。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙（B4上質紙）×1枚

●面接

これまで在籍した教育の場でどのような意識と姿勢をもって何を学び獲得したか、本コースを志願する理由、自身の研究や制作のテーマ、本コースのどういった条件や環境が自身の学びや表現に適し成長の糧になると考えるか、修了後のプラン…などについて具体的に語ってもらい、本人の価値観、思考、独自性、制作への熱意とともに本研究科で成長できる資質を見極めたい。

留学生については、日本語での確な受け応えができ、コミュニケーションが十分に取れるのか。リサーチ、研究を深められるだけの日本語能力を備えているのかを確認し、また、数ある美術大学の中で、なぜ本学を志望するのか。そして、さまざまな表現領域のある本コースの中で、どのメディアを選び研究、作品制作を行っていくのか、その計画を語ってもらった。さらに、その研究・制作をどれだけ情熱をもってできるのか、その意欲を確かめ評価した。

造形芸術専攻

選考方法

各提出物^{※1}、外国語(英語)、小論文^{※2}、口述試験による審査

※1 提出物の内容は志願する領域によって異なります。

※2 作品制作研究領域、環境形成研究領域の志願者のみ。

外国語(英語)(1時間)

【問題】

下線部以外の英文を和訳しなさい。

出典：Sybil Emerson, Design: A Creative Approach, International Textbook Company, 1953, pp. 8-9

※英文は非掲載とします。

【条件】

辞書の使用を認める。

小論文(2時間)

【問題】

以下の設問からいずれか一つを選び1,200字以内で論述しなさい。

なお、選択した設問の番号を原稿用紙の1マス目上部(枠外)に明記すること。

(1) 今日の社会において、芸術表現と公共性はどのような関わりをもつか、あるいは芸術における公共性とはどのようなものか、あなたの考えを述べなさい。

(2) 研究や制作の場に隣接する図書館や美術館におけるデジタルアーカイブは、近年、資料や作品の保存・公開にとどまらず、研究や制作の過程を支える基盤として捉え直されつつある。

このような状況において、デジタルアーカイブは研究や制作とどのように結びつき、どのように位置づけられ、活用されうると考えられるか。現在の動向や具体的な事例を踏まえ、デザイン研究の観点から、あなたの考えを述べなさい。

審査基準・評価ポイント

●外国語(英語)

博士後期課程での研究において必要となる海外文献、資料等の読解力を測ることを目的としている。

解答例については、受験者がそれを模範解答と認識し、模倣、類似の解答が増加し、出題意図で示した能力の測定が難しくなることから、公開は行わない。

●小論文

博士論文の執筆において必要となる日本語での論述力、テーマについて自身の言葉で語るができる能力を測ることを目的としている。

解答例については、受験者がそれを模範解答と認識し、模倣、類似の解答が増加し、出題意図で示した能力の測定が難しくなることから、公開は行わない。

造形構想専攻

選考方法

各提出物[※]、外国語(英語)、小論文、口述試験による審査

※ 提出物の内容は志願する系統によって異なります。

外国語(英語)(1時間)

【問題】

This paper is based on a conference presentation.

Read the paper and complete the following:

1. Summarize the paper in three sentences.
2. Write three questions in English that you would ask the author directly about their work. Your questions should stimulate academic discussion on the paper and/or draw attention to issues not discussed in the paper. Explain your motivation for asking each question.

Please do not include your name or any other personal information. You may mention your interests and academic pursuits.

*The paper is the original version published in the proceedings without any modifications.

※別紙は非掲載とします。

小論文(2時間)

【問題】

(1) あなたの研究にもっとも関連する論文の概要と今後の研究との関連や展開について600字以内で論述しなさい。

(2) 以下の設問からいずれか一つを選び、1,000字以内で論述しなさい。なお、選択した設問のアルファベットを原稿用紙の1マス目上部(枠外)に明記すること。

A) デザインにおいて人類学のアプローチを活用することの可能性を論じなさい。

B) リサーチ・スルー・デザインの概念を説明し、その可能性について論じなさい。

C) システミックデザインの概念を説明し、その可能性について論じなさい。

審査基準・評価ポイント

●外国語(英語)

博士後期課程での研究、博士論文執筆において必要となる海外文献、資料等の読解力、英語でのコミュニケーション能力を測ることを目的としている。

解答例については、受験者がそれを模範解答と認識し、模倣、類似の解答が増加し、出題意図で示した能力の測定が難しくなることから、公開は行わない。

【配付物】

1. 試験問題
2. 別紙

出典：Haewsungcharern, P. (2025). Digital Archiving of Bamboo Basketry Knowledge: A Comparative Study of Thai and Japanese Learning Media. In Proceedings of the Internatinal Conference on Asia Digital Art and Design Asia Digital Art and Design Association (pp. CT1501-CT1508). Asia Digital Art and Design Association.

3. 解答用紙×1枚
4. B4上質紙(下書き用)×1枚

【条件】

1. 表題はつけなくてよい。
2. 原稿用紙は指定字数に従って縦書きで使用する。
3. 氏名欄は全頁記入すること。

【配付物】

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1セット
3. B4上質紙(下書き用)×2枚

●小論文

博士後期課程での研究、発表、博士論文の執筆において必要となる日本語での論述力、テーマについて自身の言葉で語るができる能力を測ることを目的としている。

解答例については、受験者がそれを模範解答と認識し、模倣、類似の解答が増加し、出題意図で示した能力の測定が難しくなることから、公開は行わない。

武蔵野美術大学 入学試験問題集 2026
外国人留学生特別選抜・帰国生特別選抜
編入学選抜
修士課程選抜・博士後期課程選抜

発行 | 武蔵野美術大学
〒187-8505
東京都小平市小川町1-736

発行日 | 2026年7月10日
企画・編集 | 武蔵野美術大学 広報入学チーム
TEL:042-342-6038

アートディレクション | LABORATORIES
デザイン | 柳川智之
編集 | 成田敏史
写真撮影 | いしかわみちこ

本冊子の図版及び文章の無断転載を禁ずる。
Copyright©2026
Musashino Art University All Rights Reserved.